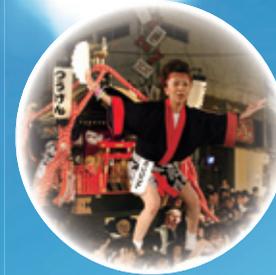
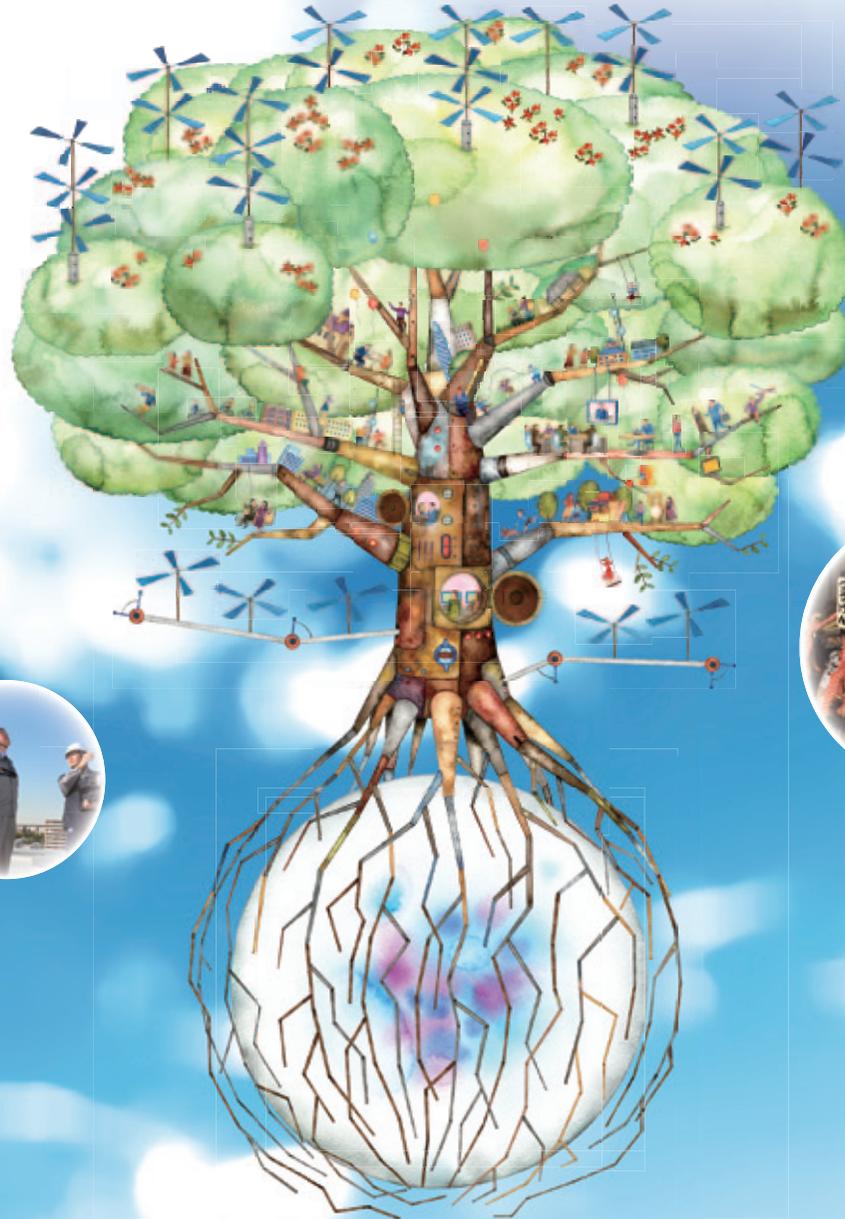


COMSYS Group CSR REPORT 2014

コムシスグループ CSRレポート



編集方針

「COMSYS Group CSR REPORT 2014」は環境に配慮し、Webサイトを中心にPDFを活用した開示方法を採用しています。皆さまのご理解のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

「COMSYS Group CSR REPORT」は、コムシスグループのCSR(企業の社会的責任)に関する考え方と活動状況をステークホルダーの皆さまに、分かりやすく報告することを目的として発行しています。本レポートでは、「本業を通じた社会貢献」をテーマとした事例を特集したほか、グループ各社の2013年度の個々の活動は、ISO26000の「7つの中核主題」に準拠した章構成で報告しています。

■報告対象分野

事業活動の社会・環境の両側面についての取り組みを報告しています。

■報告対象範囲

コムシスホールディングス株式会社および主要事業会社

■報告対象期間

2013年度(2013年4月～2014年3月)の取り組みについて報告していますが、2014年4月以降の活動や情報についても一部報告しています。

■参考にしたガイドライン

GRI「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン第3.1版」

環境省「環境報告ガイドライン2007年版」

ISO26000：2010年11月1日に発行された国際規格で、企業にとどまらず多様な「組織」を対象とし、持続的な発展と開発への貢献を促すことを目的とするガイダンス。7つの原則(行動規範)と7つの中核主題を掲げ、関連する課題や具体的なアクションプランを挙げて、社会的責任を果たしていくための具体的活動例を示しています。

■次回発行予定

2015年9月

URL ▶ <http://www.comsys-hd.co.jp/>

コムシスホールディングス会社概要

社名	コムシスホールディングス株式会社	連結従業員数	9,625人(2014年3月末日現在)
英文社名	COMSYS Holdings Corporation	単独従業員数	45人(2014年3月末日現在)
設立日	2003年9月29日	主要事業会社	● 日本コムシス株式会社(以下日本コムシス)
所在地	東京都品川区東五反田2-17-1 TEL 03-3448-7100(代表)	(詳細はp.1)	● サンワコムシスエンジニアリング株式会社(以下サンワコム)
資本金	100億円		● 株式会社TOSYS(以下TOSYS)
連結売上高	3,313億円(2014年3月期)		● 株式会社つうけん(以下つうけん)
連結経常利益	280億円(2014年3月期)		● コムシス情報システム株式会社(以下COMJO)
			● コムシスシェアードサービス株式会社(以下CSS)

CONTENTS

コムシスグループの組織体制	1
コムシスグループの事業概要	2
トップコミットメント	3

特集1 水道施設工事への挑戦	6
----------------	---

特集2 コムシスグループの太陽光発電	8
--------------------	---

特集3 4つの道しるべのベンチマーク	10
--------------------	----

組織統治 / よりオープンに、より厳正に	12
----------------------	----

人権 / 相手を尊重し、信頼を築く	17
-------------------	----

消費者課題 / お客様視点で企業競争力アップ	18
------------------------	----

環境 / 地球環境課題の解決に向けて	26
--------------------	----

労働慣行 / 働きがいのある職場環境を目指して	31
-------------------------	----

公正な事業慣行 / オープン・フェアな企業文化	43
-------------------------	----

コミュニティへの参画 / 地域とともに育てていただく	46
----------------------------	----

● 参考資料

コムシスグループ CSR のあゆみ	52
-------------------	----

コムシスグループの組織体制 (2014年9月1日現在)

コムシスホールディングス株式会社



日本コムシス株式会社

日本コムシス

設立日 1951年12月20日
 所在地 東京都品川区東五反田2-17-1
 TEL 03-3448-7030
 代表者 代表取締役社長 伊東 則昭
 執行役員社長 伊東 則昭
 資本金 311億4,051万円
 従業員数 連結4,681名
 単独3,082名
 (2014年3月末現在)
 売上高 連結2,048億円
 単独1,877億円
 (2014年3月期)

- 日本コムシスグループ
- コムシスマバイル(株)
 - コムシスエンジニアリング(株)
 - ウィンテック(株)
 - コムシス関西エンジニアリング(株)
 - コムシス九州エンジニアリング(株)
 - (株)フォステクノ四国
 - 通信電設(株)
 - 日本海通信建設(株)
 - 八代通信建設(株)
 - コムシス北海道エンジニアリング(株)
 - (株)日本エコシステム
 - コムシスネット(株)
 - コムシス東北テクノ(株)
 - コムシス通産(株)
 - (株)大栄製作所



サンワコムシス エンジニアリング株式会社

サンコム

設立日 1947年9月12日
 所在地 東京都杉並区高円寺南2-12-3
 TEL 03-6365-3111
 代表者 代表取締役社長 山崎 博文
 資本金 36億2,471万円
 従業員数 連結 1,473名
 単独 720名
 (2014年3月末現在)
 売上高 連結616億円
 単独529億円
 (2014年3月期)

- サンコムグループ
- 三和電子(株)
 - (株)エス・イー・シー・ハイテック
 - サンコムテクノロジ(株)



株式会社TOSYS

TOSYS

設立日 1960年1月23日
 所在地 長野県長野市若穂綿内字東山1108-5
 TEL 026-213-8920
 代表者 代表取締役社長 小川 亮夫
 資本金 4億5,000万円
 従業員数 連結 1,031名
 単独 682名
 (2014年3月末現在)
 売上高 連結302億円
 単独243億円
 (2014年3月期)

- TOSYSグループ
- (株)アルスター
 - (株)トーシス新潟
 - チューリップライフ(株)



株式会社つうけん

つうけん

設立日 1951年4月2日
 所在地 北海道札幌市白石区本通19丁目南6-8
 TEL 011-860-1161
 代表者 代表取締役社長 三浦 秀利
 資本金 14億3,293万円
 従業員数 連結 1,754名
 単独 865名
 (2014年3月末現在)
 売上高 連結405億円
 単独283億円
 (2014年3月期)

- つうけんグループ
- (株)つうけんアドバンスシステムズ
 - (株)つうけんアクティブ
 - (株)つうけんアクト
 - つうけんビジネス(株)



コムシス情報システム株式会社

COMJO

設立日 2009年4月1日
 所在地 東京都港区高輪3-23-14
 TEL 03-3448-8100
 代表者 代表取締役社長 工藤 賢
 資本金 4億5,000万円
 従業員数 連結502名
 単独361名
 (2014年3月末現在)
 売上高 連結90億円
 単独72億円
 (2014年3月期)

- COMJOグループ
- コムシステクノ(株)

グループ企業の業務について

通信キャリア様のほか、官公庁および一般企業各社を主たるお客様としていますが、通信キャリア様に関しては統括事業会社のうちの4社がお客様や営業地域によってセグメントされており、日本コムシスはNTT様およびNTTドコモ様を、サンコムはKDDI様やソフトバンク様をはじめとするNCC (New Common Carrier) を、TOSYSは信越地域のお客様、つうけんは北海道地域のお客様を対象として、情報通信インフラの設計から工事・保守・運用までのサービスを提供しています。COMJOはソフトウェア開発をはじめとする情報システムの開発を主な業務として、経理・財務、総務人事業務関連のサービスを提供するCSSとともに、グループ全体をバックアップしています。



コムシスシェアード サービス株式会社

CSS

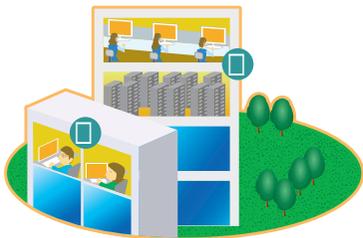
設立日 2003年10月1日
 所在地 東京都港区高輪3-23-14
 TEL 03-3448-7141
 代表者 代表取締役社長 上脇 晃一郎
 資本金 7,500万円
 従業員数 139名
 (2014年3月末現在)
 売上高 32億円
 (2014年3月期)

コムシスグループの事業概要 □ “つながりを支える” コムシスグループ



ICTソリューション

さまざまな技術やサービスを駆使して、お客様のご要望に合わせて、多岐にわたるソリューションを提供します。



コモンプラットフォーム ③

通信キャリアのネットワーク構築で培った高度なインフラ構築技術をいかし、お客様のご要望に合わせたプラットフォームを構築します。

ICTプラットフォーム ④

増加するデータ資産を高速で送受信するために、特別な圧縮技術やWAN高速化装置などの最新技術により、物理的な制約にとられない高速ネットワークを提供します。さまざまなセキュリティ技術を使い、光ファイバーやLANケーブルの中を流れる大切な情報を安全・正確に伝達する環境を構築します。

コミュニケーションソリューション

次世代コラボレーションプラットフォーム「comsip」をベースとした、テレフォニーソリューションやコンタクトセンターソリューションにより、理想的なコミュニケーションプラットフォームを構築します。

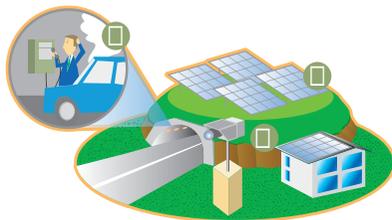
ICTマネジメントサービス

フルアウトソースサービスの提供から、フルタイムの遠隔監視・全国駆け付け保守対応などのさまざまなICTマネジメントサービスにより、お客様の煩雑な運用業務を軽減するとともに、いつでも快適なシステム環境をご利用いただけるようサポートしています。

社会システム

地震や台風、大雨などの自然災害を監視・予測するシステムや自然エネルギーを活用した発電システムを提供します。

※右記工程は、監視システムの場合。



設計

設置エリアの指定を受け、監視カメラなど機器の設置計画を立案します。有線か無線かの判断、使用機器の選定や手配などを行います。

工事

工事計画に沿って、監視カメラの設置、ケーブル接続など、システム導入のための工事を行います。

保守

システムや設置機器のメンテナンスを行い、管理者であるお客様が快適にシステムをご利用いただけるようサポートします。

例えば

- ・監視カメラ ① (火山、地震、道路など)
- ・トンネル通信設備、防災設備 ②
- ・太陽光発電設備 ③
- ・共同溝設備 ・電気設備

無線ネットワーク

快適な携帯電話ネットワークを構築するために基地局の設置工事をを行います。設置エリアの調査から工事後の保守まで手がかけます。



折衝・コンサル

基地局を必要とするエリアの事前調査を行います。結果をもとに設置場所を選定し、設置候補地に関する折衝も行います。

設計・施工

工事計画を立案し、施工を行います。設置場所の条件・環境によっては、基地局を設置するための鉄塔を建設する場合があります。

保守

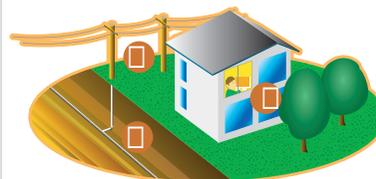
設置工事後は、運営中に故障や異常が生じた場合の対応も行っていきます。また、既存エリアの品質調査を実施する場合があります。

例えば

- ・携帯電話基地局設置 ①
- ・携帯電話品質調査
- ・無線LAN

有線ネットワーク

通信キャリアの通信設備構築やメンテナンス、各ご家庭への光ファイバの敷設・接続業務などを行います。地下ケーブル専用のトンネル工事なども実施します。



設計

ケーブルを地下から引くか、電柱から引くかなど、接続するルートを選定します。決定後は、ルート開通に必要な工事計画を立てます。

工事

工事計画に沿って接続工事を行います。お客様のニーズに合わせて、納品後のメンテナンスも請け負っています。

回線増設

将来のさらなるネットワーク拡大に伴うニーズ増加に備え、通信キャリアの需要予測に基づいて回線や交換機の増設工事を行っています。

例えば

- ・通信キャリア設備 ①
- ・固定電話回線 ② (地下ケーブル・電柱)
- ・光回線 (FTTH) ・CATV ③

安全と品質の確保を第一に 本業を通じて社会に貢献いたします

「通信ネットワークによって人と人、人と社会がより豊かにつながる社会づくりに貢献」することをCSR理念として掲げ、着実に本業を進めることで持続可能な社会の実現を目指すとともに、安全と品質の確保を常に最優先課題と位置づけて事業を推進しています。

コムシスホールディングス株式会社
代表取締役社長

高島元

コムシスグループのCSRの考え方

政府が推進するICT成長戦略・国土強靱化政策などによる公共投資、そして民間企業の設備投資・IT投資の増加によって、社会基盤事業をはじめとする非キャリア系ビジネスは、2014年度に入って大幅に受注が伸びています。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催決定によって、社会インフラ関連のマーケットが今後拡大していくのは明らかです。

このような環境のもと、コムシスグループでは安心・安全・便利なネットワーク社会の実現に向けた取り組みを強化し、確実に事業を推進することが社会に貢献することと考えています。しかし、ただ単に事業を推進するだけではなく、利益を出すことで企業活動を継続していかなければ、本当の意味で社会に貢献しているとはいえません。正々堂々と企業活動を行い社会インフラの整備に貢献して利益を生み出す。そしてその利益をステークホルダーに還元することによって、社会の持続的発展へ貢献できるものと考えています。

安全かつ効率よく、生産性を向上する

維持可能な企業として存続するためには、ステークホルダーから信頼される企業でなければなりません。私たちが事業活動を行う中で、安全と品質の確保は、いかなる事業環境においても、揺るぎない至上命題です。

事故件数が増加した2012年度の教訓から、2013年度はより実効性のある見込める施策を進めたことで発生件数が減少するなど、一定の成果が挙がってきています。

さらに、安全パトロールをはじめ、注意喚起を促すためのいろいろなサブシステムを今以上に機能させ、安全を確保する取り組みを各現場で継続していくとともに、安全指導体制の強化、事故事例に基づく再発防止策の徹底を推進しています。また、工事に伴う事故のみならず、交通安全の意識向上を目的としてドライブドクターを活用し、重大事故ゼロを目指します。

コムシスグループの従業員は、協力会社も含めると約5万人です。これだけの大人数が同じ価値観を共有し、さらにお互いにとってWin-Winの関係を安定

的に築いていくには、協力会社を含めた業務の一体的運営を図っていかなければなりません。そのためには、社内の仕組みや仕事の進め方、その他あらゆる面での改善が必要ですが、生産性向上と、元請け会社としての付加価値を創出するために取り組んできた「ワークフローの最適化・標準化」施策が、工事の円滑な遂行と施工品質の確保に、一定の成果を挙げつつあります。従来、工程ごとの部分的な最適化・標準化は進展させてきましたが、2013年度はわれわれが蓄積してきた多様な経験とノウハウを注入するとともに、最新の情報技術を活用することで、もう一段レベルの高い、工事工程全般をマネジメントできる「施工ITプラットフォーム」を構築することができました。この「施工ITプラットフォーム」には、われわれが長い歴史の中で確立してきた、安全・品質を確実に担保するための作業項目や注意点が仕組みとして組み込まれています。さらには、さまざまな改善提案を各部署・全社員から募ることにより、もっと良くしていこうという機運が社内に高まっており、品質向上の手ごたえを感じています。

また、建設業にとって最大の経営資源は「人材」です。マーケットの変動など状況を見極め、すぐれたスキルを持つ多様な人材を育成し、各人の持ち味が活かせる業務環境を整備していくことは、安全と品質の確保と並行して重要な課題と考えています。新入社員、中堅社員、管理職など階層別に研修を実施するとともに、ベテラン社員が若手社員に技能を継承するチューター制度などを活用し、安全品質同様、協力会社も含め着実にスキルアップを図っています。

新規ビジネスの一層の拡大に向けて

今後も、われわれの経験とノウハウが活かせる、既存ビジネスとの親和性がある分野を、積極的に受注していきます。現時点では、2013年度に東京都格付Aランク事業者となった上水道工事やコムシスグループの手掛ける太陽光建設工事業、および太陽光発電事業が挙げられますが、特に太陽光関連は予想をはるかに超える規模で大きく伸びています。国が定める買い取り価格が年々引き下げられることを見据えて、日本コムシスの社会基盤事業部を中心に、ミドルソーラーやスマートソーラー、さらには次なるエネルギー関連ビジネスの検討も、順調に進んでいます。今後のコムシスグループの成長に、大きな貢献を果たしていくと予想しています。

エネルギー以外で注目すべき分野のひとつは、スマートシティ関連の市場です。現在、調査を進めている段階ですが、通信インフラ工事を含めた、社会貢献と収益を両立させるビジネスモデルを立案できる可能性は十分にあります。

ITソリューション事業に際しては、ソフトウェアベンダーとのアライアンスなどで、とりわけ医療・教育の分野でシステム構築実績が蓄積されており、将来に希望が持てる収益基盤のひとつに育ってきています。

これまでの10年、これからの10年

2013年9月、おかげさまでコムシスホールディングスは、設立10周年を迎えることができました。これもひとえに、ステークホルダーの皆さまのご理解とご支援によるものであり、感謝の念に堪えません。

10年前、通信建設業界は「未来の発展には業界全体での生産性向上と効率化が必要だ」という機運が高まり、純粋持ち株会社を設立しました。各社の良い部分をお互いに取り入れながらシナジー効果を生み、各社が売上・利益を高めていく効果を狙いましたが、この10年間、問題は山のようにありました。しかし、グループ各社社員がそれぞれのステージで努力し、課題をクリアしてきたことが今の成果につながっています。市場の変化スピードは日々早くなっており、この先の10年は、これまでの10年よりもさらに目まぐるしく変化が起こ

り、見える景色も急激に変わるかもしれません。継続的に利益を生み出し成長していくためにはコムシスグループ全体で最適な答えを探しながら、常に変革を止めず走り抜けていかなければなりません。

以前から取り組んできた構造改革の進化版「COMSYS WAY^a (COMSYS WAY ADVANCED)」は着実に実を結びつつあります。2013年度はCSRの観点からも、より積極的なCSR活動を推進するために、この「COMSYS WAY^a」を軸として優先的に取り組むべき4つの重要課題（安心安全な業務体制、品質へのこだわり、人づくり、継続的なBPR）を抽出し「4つの道しるべ」として新たに選定しました。今年度はこの「4つの道しるべ」に沿った具体的数値目標を設定し、改めてグループ内で具体的な目標を共有することにより、CSRに対する意識を一段と高めていきます。

コムシスグループが社会的使命を果たすためには、4つの重要課題を軸に、本業を通じて、一人ひとりがCSR活動に取り組んでいくことが必要です。通信建設業界のトップブランドとして、コムシスグループならではの活動を推進することにより、さまざまなステークホルダーの期待に応え、社会に貢献できる企業として成長を目指します。

今後とも、皆さまの変わらぬご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

1 新規事業拡大に向けた取り組み 水道施設工事への挑戦



日本コムシスでは、東京都水道局発注の大規模な配水本管工事を無事終えたことにより、発注者や地域住民から厚い信頼を得ただけでなく、東京都の上水道工事格付がDランクからAランクへと短期間で昇格することができました。これには、正確かつ安全な現場施工に加え、こつこつと取り組んだ水道工事周辺での活動も加味されています。

難工事を乗り越え、東京都水道局より優良請負工事表彰に選出

2010年10月、東京都水道局は「耐震継手化10ヵ年事業」を発表しましたが、これは、今後10年間で約5,000kmの老朽化した水道管を、耐震継手付の管に取り替えるというもので、2019年度末までの毎年の水道施設工事予算は約500億円、これまでの2倍の量が発注されることとなります。今後増大するであろう水道工事を着実に受注していくには、少しずつでも実績を積み上げ、大規模工事を任される信頼を勝ち取る必要があります。



今回、事例としてご紹介する杉並区善福寺周辺での現場は、閑静な住宅街を10ヵ月間にわたり通行止め規制を行って施工する1工区での工事と、青梅街道と千川通り

の交差点において、8ヵ月間にわたって夜間上り車線全線の規制を行って施工する2工区の、全く異なる作業環境下での工事でした。1工区では地域住民とのコミュニケーションと細やかな配慮が必要不可欠であり、2工区では交通量の多い幹線道路で、通行車両や歩行者を安全に誘導するための対策が重要でした。

現場を任されたのは、日本コムシスに5名しかいない推進工事技士である田代と辻で、この2名は入社以来一貫して官公庁発注工事を主に担当してきたスペシャリスト。とはいえ、都市部での大規模な上水道工事は初めてであり、計画通りに進まないこともありました。同時に高い技術力も要求され、1工区では立坑築造に伴う地盤改良工法を最新の工法に大幅変更するなどの技術提案を行い、慎重に施工を進めることになりました。また、2工区では走行中のドライバーがなるべく早い段階で工事箇所を視認できるよう、照明設備や保安設備の計画と実施に重点を置くなど、安全面に配慮しました。それでも、現場で解決できないことは上司に報告、指示を仰ぐとともに、水道局のスタッフや協力会社の作業員とコミュニケーションを密にすることによって、日々発生する想定外の出来事にも全員で試行錯誤しながら取り組み、成功に導くことができました。このような活動が評価され、2012年度完成工事の中から、特に優秀な工事成績の9社に選ばれ、東京都水道局長より表彰状をいただくことができました。



1工区は閑静な住宅街での地盤改良工事



2工区は交通量の激しい幹線道路で夜間交通規制をして作業



日本コムシス
社会基盤事業本部 基盤システム部門
現場代理人 田代 量裕



日本コムシス
社会基盤事業本部 基盤システム部門
担当技術者 辻 暢也

イメージアップコンクールで優良賞を受賞

幹線道路や住宅街での長期間にわたる水道工事において、安全で円滑な施工を行うためには、地域住民の皆さんのご理解とご協力が欠かせません。

そこで東京都水道局では、水道工事の状況説明などに優れた取り組みを実施した工事について表彰を行う「水道工事イメージアップコンクール」を実施しています。



優良賞を受賞しました

今回の現場では、地域住民への付加価値説明や、『工事＝迷惑』なものと思われないためにはどのような取り組みを行えば良いかをメンバーで話し合い、交通規制に関する横断幕の歩道橋への設置、仮設バス停への椅子の設置、LED充電仕様の夜間照明の採用、現場周辺の清掃活動といった、安全や環境に配慮した複数の取り組みを実施しました。

特に清掃活動においては、現場従事者以外の本社勤務の社員たちがサポートに駆け付け、スーツ姿にベストを着用、キャップをかぶり清掃を行ったことで、全社一丸となって現場をサポートしているとして高い評価を受けました。

また、閑静な住宅街での工事ということで、騒音防止シートで現場を覆って工事を行うとともに、住宅に駐車してある自動車には埃がかからないように養生シートで保護するなど、地域特性を意識した細やかな対策を図りました。

このような取り組みが評価され、「平成23年度水道工事イメージアップコンクール」で優良賞を受賞することができましたが、これは現場だけで実現できるものではなく、現場と本社が一体となって取り組んだ結果といえます。今後も全社一丸となって、工事のサポートに取り組んでいきます。



本社勤務の社員も参加



仮設バス停に、水をイメージした水色の椅子を設置



騒音防止シートで防音対策



工事現場手前には照度の高い「水道工事中」の看板を設置

格付 D ランクから A ランクへ

今回の案件は上水道工事に分類されますが、日本コムシスはこの上水道工事というジャンルにおいて、2008年度まではDランクでした。当然、Dランクのままでは小規模の工事しか担当できません。ランクを上げるには、着実に実績を積み上げて信頼を勝ち取るほかありませんが、この水道工事への挑戦は、社会基盤事業本部の営業・現場一体となった取り組みが実を結び、足掛け4年という驚異的な速さで3ランクアップを達成。通信建設会社として初のAランク事業者認定されたことにより、安定的な受注機会を得ることに成功しました。

2年前、投資家向け説明会で発表した「Aランクを目指します」という予告宣言を見事に実現。この功績を次のステップとして、トップラインの拡大に寄与するとともに、社会インフラの改良・改善に貢献し、さらなる飛躍を遂げていきます。

特集 2 自然エネルギー普及への継続的な取り組み コムシスグループの太陽光発電



CO₂や有害な排気ガスを出さないクリーンな発電設備として注目を浴びている太陽光発電。近年では環境問題への関心の高まりから、一般家庭や一般企業での使用も増えてきており、コムシスグループでも全社を挙げてメガソーラー事業に取り組んでいます。

新たな取り組み（発電事業）

コムシスグループでは、新規ビジネスの一環としてメガソーラー事業を進めております。2013年4月に第1号として茨城県常陸太田市でメガソーラー発電を開始しました。これは、グリーンエネルギーの創出による地域社会および地球環境への貢献を目指していく事業拡大の第一歩です。また、買取期間の20年間継続して売上げの見込める事業でもあります。メガソーラー事業はこのほか、群馬県・三重県でも発電を開始しております。今後も引き続き新たな候補地を選定するとともに、環境配慮型の事業を積極的に展開していきます。



第1号 サン・ファクトリー檜山（常陸太田太陽光発電所）

【概要】

所在地	茨城県常陸太田市箕町1075-5,6
敷地面積	約65,000m ²
発電容量	約2,784kW
発電量	年間約280万kWh
パネル数	9,600枚
稼働開始日	2013年4月5日
施工会社	日本コムシス株式会社
発電事業者	コムシスクリエイト株式会社



第2号 サン・ファーム千年の森（昭和太陽光発電所）

【概要】

所在地	群馬県利根郡昭和村大字川額3711-3
敷地面積	約50,000m ²
発電容量	約2,419kW
発電量	年間約240万kWh
パネル数	10,080枚
稼働開始日	2013年10月11日
施工会社	日本コムシス株式会社
発電事業者	コムシスクリエイト株式会社



第3号 サン・カントリー榎原 津（津太陽光発電所）

【概要】

所在地	三重県津市白山町三ヶ野1335
敷地面積	約82,000m ²
発電容量	約2,505kW
発電量	年間約270万kWh
パネル数	8,640枚
稼働開始日	2013年11月1日
施工会社	日本コムシス株式会社
発電事業者	コムシスクリエイト株式会社



継続的な取り組み（EPC 事業）

自然との調和を念頭に置いて計画的に発電所を建設中

日本コムシスでは、これまで太陽光発電設備の施工など環境分野の社会整備において、実績を積み上げてまいりました。その技術をさらに発展させ、メガソーラーのEPC事業に取り組んでいます。メガソーラー事業は予想以上の伸びで展開しており、コムシスグループが進める構造改革「COMSYS WAY[®]」の「トップラインの拡大」施策に貢献しています。2012年度は60億円であったEPC受注高が2013年度には100億円程度にまで伸びてきていますが、この背景としては、EPC事業という設計、調達、建設という総合的な技術力が要求されるプロジェクトにおいて、日本コムシスは通信建設業界に身を置きながらも電気工事業界に負けないほどの高い評価を受けることにより、多くの引き合いをいただくことができています。電気技術者だけでなく、建築や土木に精通した専門の優秀なスタッフが担当することで、設計から引き渡しまで、一気通貫で任せただけでいただけることがその理由です。太陽光事業専門の安全品質チームを配備し、当社社員から協力会社スタッフに至るまで、安全点検や工程チェック、行政への提出書類チェックなど、多岐にわたって品質管理を徹底しています。

また、日本コムシスは業界内でも有数のIT推進企業であり、業務効率化を進めることによってコストパフォーマンスの改善と品質の向上に大きく貢献しています。

今後もトップラインの拡大に向け、着実に事業を進めていきます。

●現場の声

すでに全国で50カ所以上の拠点を構えることができましたが、今後は地上や屋根上にとどまらず、水上など今までになかったような場所にも設置できるよう、行政や各メーカー、商社、パートナー会社と協力して事業を推進していきます。



日本コムシス 執行役員
社会基盤事業本部 副本部長
電気通信システム部長
川上 正光

太陽光設備の建設拡大によって、部品の調達に苦心することも増えてきましたが、設計段階から調達計画を策定し、機器メーカーなどとのアライアンスにより工事に影響が出ないようにしています。常日頃から、設計チームや顧客とのコミュニケーションを大事にすることがポイントです。



日本コムシス 社会基盤事業本部
電気通信システム部門 技術長
城戸 孝公

設計の前段階において、現地の状況がよく分からないままプロジェクトが開始することはよくあります。数多くの経験を積んできたことによって、ノウハウを蓄積できたことが自信につながり、スピードアップと品質の向上につながっていると思います。



日本コムシス 社会基盤事業本部
電気通信システム部門 担当課長
小林 晃

屋根上への太陽光パネル設置の流れ



また、TOSYSでは、太陽光発電システム導入時の現地調査、設計、施工、各機関への書類作成などを総合的に行っており、2013年度は工場や倉庫の屋根に太陽光パネル約7,000枚を敷き詰めた総合出力約1.2MW規模のものなどを手掛けました。

太陽光発電システムの設置にあたっては、設備の重量を軽くするために、架台をアルミ製、基礎を鉄製とし、非常時に停電している場合でも、少しでも電気を使えるように、PCSの自立運転機能を使用した自立運転コンセント盤を設置するなどお客様にとって最適なシステムの提供に努めています。

特集 3 CSRを意識した経営 4つの道しるべのベンチマーク



コムシスグループでは、2013年度に選定した4つの重点課題「4つの道しるべ」に沿った中期的なCSR目標を設定し、達成に向けて活動を推進しています。

4つの道しるべにベンチマークを設定しました

凡例：



安心安全な業務体制 仲間を守り、お客様のプライバシーを守る取り組みを進めています

目標	対象企業						備考
	COMSYS	SUNCOM	TOSYS	つうけん	comjo	CSS	
労働災害発生日数率 2013年度未満	●	●	●	●	—	—	100万延労働時間当たりの労働災害による死傷者数の割合
セキュリティ事故0件	●	●	●	●	●	●	情報セキュリティ
協力会社を含む安全研修実施率100%	●	●	●	●	—	—	

品質へのこだわり 労働の質を高め、省エネ・省力化の創意工夫でサービス品質を追求します

目標	対象企業						備考
	COMSYS	SUNCOM	TOSYS	つうけん	comjo	CSS	
エネルギー消費（省エネ法） 5年間で2011年度比実質5%削減	●	●	●	●	●	●	
古紙リサイクル率90%以上	●	●	●	●	●	●	
改善提案・VE提案の質の向上	●	●	●	●	●	●	

人づくり ワークスタイルの刷新で活力ある人づくりに努めます

目標	対象企業						備考
	COMSYS	SUNCOM	TOSYS	つうけん	comjo	CSS	
時間外労働の効率化	●	●	●	●	●	●	
ダイバーシティマネジメントの推進	●	●	●	●	●	●	
研修カリキュラムの完全履行	●	●	●	●	●	●	

継続的なBPR どんな経営環境でも乗り越える筋肉質で強い会社を目指します

目標	対象企業						備考
	COMSYS	SUNCOM	TOSYS	つうけん	comjo	CSS	
トップラインの拡大 （新規事業開拓）	●	●	●	●	●	●	
構造改革の進化によるさらなる利益率向上	●	●	●	●	●	●	

2013年度活動報告

ステークホルダーの皆さまに向け、社会的責任に関する国際規格 ISO 26000における7つの中核課題に則り、ともに社会的価値を創造していくための取り組み

組織統治

→ p.12~

よりオープンに、より厳正に

- ▶ 公平かつ透明性のあるIR活動を推進
- ▶ 事業継続

人権

→ p.17

相手を尊重し、信頼を築く

- ▶ 人権の尊重

消費者課題

→ p.18~

お客様視点で企業競争力アップ

- ▶ 品質へのこだわり
- ▶ お客様満足度向上に向けた取り組み

環境

→ p.26~

地球環境課題の解決に向けて

- ▶ 温室効果ガスの削減に向けた取り組み
- ▶ 環境保全について考える取り組み

労働慣行

→ p.31~

働きがいのある職場環境を目指して

- ▶ 安心・安全な業務体制
- ▶ 健康管理
- ▶ 人材育成
- ▶ 従業員とのコミュニケーション
- ▶ ダイバーシティの推進
- ▶ デューセントな労働条件の提供

公正な事業慣行

→ p.43~

オープン・フェアな企業文化

- ▶ コンプライアンス
- ▶ リスクマネジメント
- ▶ 公正な競争・取引の実践

コミュニティへの参画

→ p.46~

地域とともに育てていただく

- ▶ コミュニティへの積極的な参画
- ▶ 地域社会との交流

2013年度活動報告

ステークホルダーのさまざまな期待に応え、ともに社会的価値を創造していくための施策

組織統治

よりオープンに、より厳正に

さまざまなリスクを想定したマネジメント体制のもと、健全な企業体質を構築して、企業責任を全うします。

基本的な考え方

コムシスグループはグループのシナジー効果を最大限に活かし、高品質な技術・サービスを提供することで、ICTが寄与する「持続可能な社会」の実現に向けて企業努力を重ねています。企業努力の基本となる経営管理体制や内部統制システムを強化し、株主・投資家の皆さまへの積極的なIR活動を推進するなど、コーポレート・ガバナンス強化のための施策に継続して取り組んでいます。

公平かつ透明性のあるIR活動を推進

○ コーポレート・ガバナンス

ガバナンス体制 コムシスホールディングス

—継続的なBPR—

コムシスホールディングス（以下当社）では、監査役設置会社制度を採用しています。

経営戦略に関する最高意思決定機関である取締役会は、当社事業に精通する取締役と独立した立場で経営監視を行う社外取締役で構成され、経営効率を高めるとともに、法的権限を強化された社外監査役による監査機能の充実を図ることにより、経営の健全性の維持強化に努めています。取締役会は12名の全取締役により構成され、取締役会規則に基づき定例取締役会と必要に応じて臨時取締役会を開催しており、法令で定められた事項および経営に関する重要事項について意思決定を行っています。取締役会の決定に基づく業務執行については、四半期ごとに担当取締役が取締役会に報告しています。社外監査役を含む監査役4名は取締役会に出席し、業務執行上の課題について意見を述べるとともに、取締役の業務執行を監視しています。社外取締役を除く取締役および常勤監査役で構成されている経営会議は原則月1回開催され、業務執行の効率化を高めるため、重要な意思決定事項について審議および決議を行います。経営会議には必要に応じて各組織長などがオブザーバーとして出席し、意思決定内容的に把握できるようにしています。また、各取締役の指揮のもと、担当業務別に執行会議を開催し、効率的な業務運営を行っています。

内部統制システムの整備 コムシスホールディングス

—継続的なBPR—

当社は会社法に基づき、取締役会が決議した「内部統制システム構築の基本方針」を踏まえ、内部統制システムを構築・推進しています。また、金融商品取引法に基づく「財務報告に係る内部統制」については、内部統制室を設置して財務報告のさらなる適正化に努めるとともに、継続的に内部統制を運用する体制を確立しています。

コムシスグループ役員研修会 コムシスホールディングス —継続的なBPR—

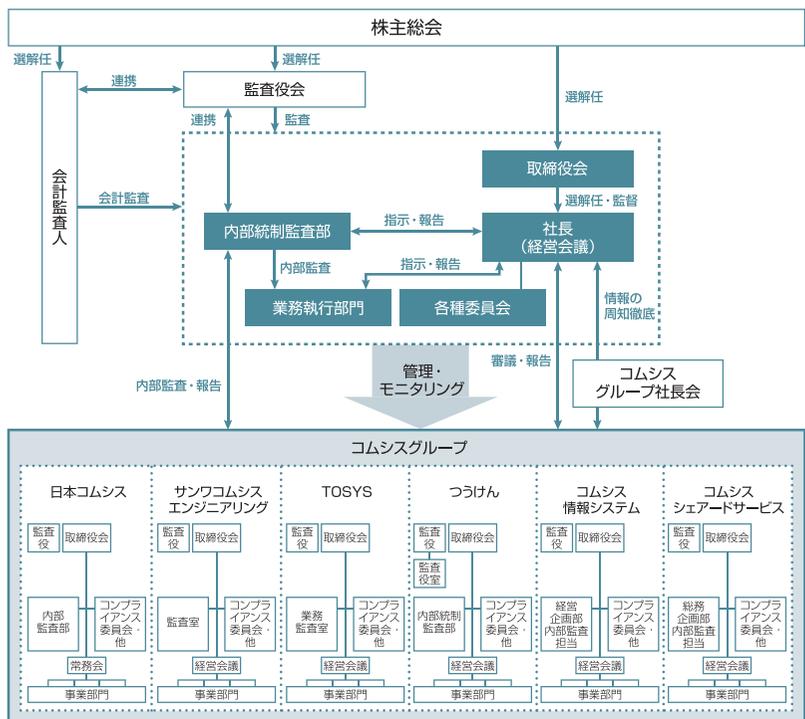
2013年7月にコムシスグループ新任役員研修会を開催しました。

本研修会は、グループ各社の新任役員を対象として毎年継続して実施しています。

弁護士、公認会計士を講師に迎え、「取締役・監査役の職務と責任」および「役員が知っておくべき会計」についての講演を受け、グループのガバナンスの強化に努めています。

コーポレート・ガバナンス体制 (2014年8月1日現在) コムシスホールディングス —継続的なBPR—

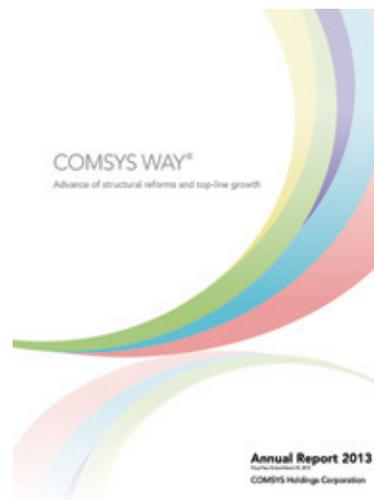
コムシスグループの業務執行体制、経営監視および内部統制を図式化すると、おおむね下図の通りとなります。



IR情報の適正・適切な開示

タイムリーな情報開示を実施 コムシスホールディングス —継続的なBPR—

コムシスホールディングスでは、株主・投資家の皆さまに対して透明性の高い情報開示を行っています。Webサイトでは、IRライブラリー、IRスケジュール、財務情報、月次情報などのIRに不可欠な情報をタイムリーに更新しているほか、半期ごとに社長メッセージやトピックスなどを掲載しています。IRライブラリーでは、「決算短信」「有価証券報告書」「事業報告書」「アニュアルレポート」などの各種資料のPDFファイルを、いつでも自由にダウンロードしてご覧いただくことができます。また、お問い合わせの多い質問にはFAQコーナーで一括してお答えするなど、投資家の皆さまがお求めになる情報を分かりやすく開示することに努めています。



Annual Report 2013



コムシスだより (期末)

開かれた株主総会の開催

第10回定時株主総会を開催 コムシスホールディングス —継続的なBPR—

2013年6月27日、東京・品川区のコムシスホールディングス本社ビルにて「第10回定時株主総会」を開催しました。

より多くの株主の皆さまが、株主総会における議案を十分に審議し、出席していただけるように、株主総会の3週間前に招集通知を発送しています。また、この株主総会での決議結果についても、Webサイトに掲載して公開しています。

決算説明会の開催

年2回の決算説明会を開催 コムシスホールディングス —継続的なBPR—

機関投資家の皆さまに向けて、コムシスホールディングスの経営方針や財務状況を理解していただけるよう、毎年2回、5月と11月に決算説明会を開催しています。

2013年度の決算説明会では、いずれも約60名のアナリストや機関投資家の皆さまにご参加いただきました。また、2013年度は2度の海外IRを行いました。株式の25%以上を外国の機関投資家が保有しており、大変重要なステークホルダーとして位置づけられています。



決算説明会の様子

事業継続

つうけんとエンジニアリング系連結子会社5社との経営統合について つうけん —継続的なBPR—

つうけんグループのNTT事業について、今後の事業環境の変化に耐え得る筋肉質な体質とするために、つうけんとエンジニアリング系連結子会社5社を合併し、構造改革を実施しました。

BCP(事業継続計画)に関する取り組み

災害演習の実施 日本コムシス —継続的なBPR—

事業継続計画の実践

日本コムシスでは、2014年3月、日本列島の東南海地域を発生源とした大規模地震による津波の被害を想定し、全国規模での災害演習を実施しました。本社をはじめとして、北海道から九州まで日本全域を対象にした大規模な演習は初の試みです（演習実施の事前通知はなく、発報時刻は演習責任者にしか知らされない方針で実施しました）。



防災演習の様子

今回の災害演習の最大の目的は、情報の連携にありました。

大規模災害時には、電話がつながりにくくなるなど通信手段の停滞が予想されます。拠点同士の連絡や社員の安否確認などに手間取っては対策を講じることができません。

そこで、日本コムシスでは独自の安否確認システムを構築し、スムーズに連携が取れるよう非常時の管理体制を整えました。

この安否確認システムは東日本大震災以前に考案されたもので、非常時においても安否確認をスムーズに行い、人員を確保することによって素早くインフラ復旧へ向けて体制を整えることを目的としています。社員だけでなく協力会社のスタッフも対象とし、十分な体制を整えることによって、事業継続計画を計画だけにとどめるのではなく、確実に実行できるものとしています。

さらに、2012年9月より新安否確認システムを導入し、連結子会社でも同システムを使用。事前に登録した家族にも安否メールが届くなど規模を拡大して災害に備えています。

今回の演習では、連結会社も含め発報から6時間以内に9割以上の安否確認が取れました。事前に発報時刻を知らせていない中でこの結果ということは、まずは及第点が取れたのではないのでしょうか。

また、社員や家族、協力会社のスタッフに向けて、合計7万部のポケット版災害時行動マニュアルを配布する準備を進めています。これは6ページほどの名刺サイズで、日常的に携帯できるようコンパクトに重要事項をまとめており、非常時にあわてず行動できることを目的としています。さらに、災害対策要員および帰宅困難者用に一人3日分の水や食料を備蓄・確保するとともに、毛布やカイロ、簡易トイレに至るまで想定される必要品を備え、災害対策を講じています。

今後も、社員からの改善提案や要望を受け、さらに充実したBCP体制を整えていきます。

防災訓練の実施 サンコム

—継続的なBPR—

サンコムでは、南海トラフを震源とする東海巨大地震、また首都圏で大地震が発生した場合を想定し、本社ビルにおいて社員安否確認、被害状況確認、衛星携帯電話での各支店の状況確認を行いました。また、備蓄品の確認や杉並消防署員の指導の下、AEDを使った心肺蘇生体験と救命講習会を実施、保管している防災用ジャッキにて重量物排除方法の確認も併せて行いました。



AED 講習



重量物ジャッキアップ講習

防災・避難訓練の実施 日本コムシス

—安心安全な業務体制—

日本コムシスでは、全ビルにおいて年1回、防災・避難訓練を実施しています。

2013年6月7日、関西支店では大阪府中央消防署立ち会いの下、通報・初期消火・避難・誘導訓練を実施しました。また、初の試みとして「垂直降下方式救助袋」を使用し、谷町第2ビル7階からの降下訓練を実施しました。



避難訓練の様子



関西支店では降下訓練も実施

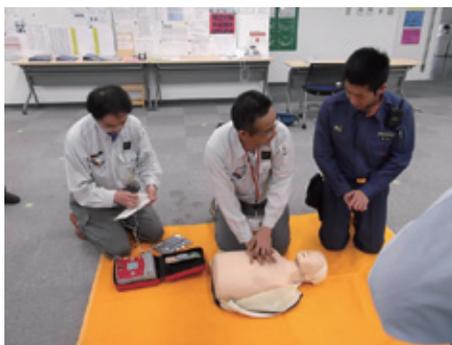
AEDの設置と講習会実施 **コムシスグループ**

－安心安全な業務体制－

コムシスグループでは、品川ビル、関西支店、サンコム本社ビル、つうけん関連企業など、各拠点にAEDを設置し、講習会を実施しています。

CSSとCOMJOでは、高輪消防署員の指導の下、品川ビルの大会議室において、社員が合同でAEDを使った救命講習会を実施しました。内容は実技主体で、人形を使って胸部を圧迫する心肺蘇生とAEDの操作でしたが、参加者は皆真剣に取り組んでいました。

つうけんアドバンスシステムズでは、本社ビル・システム開発センタビル・東京事業所に各1台、つうけんアクトでは、本社ビルに1台AEDを設置しています。



AED 訓練の様子

衛星電話の設置 **サンコム**

－継続的なBPR－

サンコムでは、非常災害時に一般固定電話および携帯電話による通信手段が寸断された場合の連絡体制確立のため、イリジウム衛星電話を本社および支店（関西・東海）に導入しました。

ステークホルダーのさまざまな期待に応え、ともに社会的価値を創造していくための施策

人権

相手を尊重し、信頼を築く

最も大切な人権を尊重し、多様な価値観を認め合う職場づくりを目指しています。

基本的な考え方

コムシスグループはすべての事業活動における人権と個性の尊重を基本原則として定め、社員一人ひとりの多様な価値観を認め合い、啓発活動を通して「性別・年齢・人権・出身・宗教・障がいの有無」などに関わる差別的な言動や、暴力、セクシャル・ハラスメント、パワー・ハラスメントなどの人格を無視した言動を行わないことを明示し、一人ひとりの人権を認め合う職場づくりを目指しています。

人権の尊重

○ 人権の尊重に関する取り組み

人権教育 コムシスグループ

—継続的なBPR—

コムシスグループでは基本的人権を尊重し、人種・宗教・信条・国籍・性別・障がい・年齢などを理由として、業務を進める上で差別をしないことを基本倫理としています。

また、人権に対する意識を社員に浸透させるため、階層別研修などで人権教育に取り組んでいます。

ハラスメント対策 コムシスグループ

—継続的なBPR—

コムシスグループでは健全な職場環境を実現するため、パワハラやセクハラに対する研修を実施しています。また、相談窓口を設置し、早期発見と相談者への対応を行っています。

「悩み110番相談窓口」の設置 日本コムシス

—継続的なBPR—

日本コムシスの「悩み110番相談窓口」では、仕事や職場に関する相談を受け付けています。相談者のプライバシーを厳重に保護し、相談窓口の担当者以外には非公開として利用者が不当な扱いを受けないよう配慮しています。

2013年度活動報告

ステークホルダーのさまざまな期待に応え、ともに社会的価値を創造していくための施策

消費者課題

お客様視点で企業競争力アップ

「コムシスブランドの品質」の維持・向上を目指しています。

基本的な考え方

サプライチェーン全体を通じて品質の維持・向上を図り、お客様満足の上昇と、既施工物件や製品に関する安全性を確保するためのマネジメント体制を構築します。さらに、協力会社と一体となり、安心・安全で質の高い「社会基盤を支えるコムシスブランドの品質」を提供し続けます。また、ステークホルダーとしてのお客様満足の上昇に向けて、さまざまな取り組みを継続していきます。

品質へのこだわり

○ 品質保証の基盤としての品質マネジメントシステム

品質マネジメントシステム「ISO9001」 **コムシスホールディングス** ー品質へのこだわりー

「お客様に信頼され、21世紀に向けての積極的な事業展開に寄与し、豊かな高度情報化社会の発展に貢献する」ことを目的として、日本コムシスの海外本部、総合システム本部、本社NTT部門の3本部が1997年、最初に品質マネジメントシステム「ISO9001」の認証を取得しました。



上) 登録証附属書
下) 登録証

その後、日本コムシス全社全部門、サンコム、TOSYS、つうけん、COMJO各社においても「ISO9001」を認証取得しました。品質マネジメントシステムの継続的改善に向けPDCA（Plan→Do→Check→Act）サイクルを基本に、システムの効果的な運用、お客様要求事項および法令・規制要求事項への適合の保証を通して、お客様満足の上昇を目指しています。

日本コムシスにおいては、PDCAサイクルのP（計画）は、ISO「品質方針」に基づいて安全品質管理本部が作成した「年度品質目標・計画表」により活動を展開しています。品質目標は設計不備率、写真検査欠点強度率、施工成績点などの具体的数値を「品質管理指標」として設定しています。D（実行）においては、施工実施、班長認定、写真検査などの標準化された業務を文書化した手順に従い実施します。これらの実施状況はC（チェック）である内部監査において確認し、内部監査のマンネリ・形骸化を打破するために、セルフチェックによる課題の抽出、監査チェックシートの見直しなど、適合性から有効性に着目した内部監査に変更し活性化を図っています。内部監査、セルフチェック、外部

審査などのC（チェック）の結果・分析をマネジメントレビューやISO推進者会議などによりA（施策）に展開し、継続的改善とシステムの有効性向上を目指しています。

● ISO9001取得状況（2014年3月末現在）

	取得年月
日本コムシス	1997年12月
サンコム	1998年 5月
TOSYS	1999年 3月
つうけん	1998年 9月
COMJO	1997年12月

○ 安全品質向上のための改善活動

改善活動への取り組み

日本コムシス

CSS

一品質へのこだわり

日本コムシスでは、現場を中心に共通系業務でも改善活動を進めており、良い提案を広く社内に展開することで業務改善効果を上げることを目的としています。経営層が掲げる改革施策と現場の改善活動が両輪となることで強い現場を作り、企業競争力の向上を目指します。

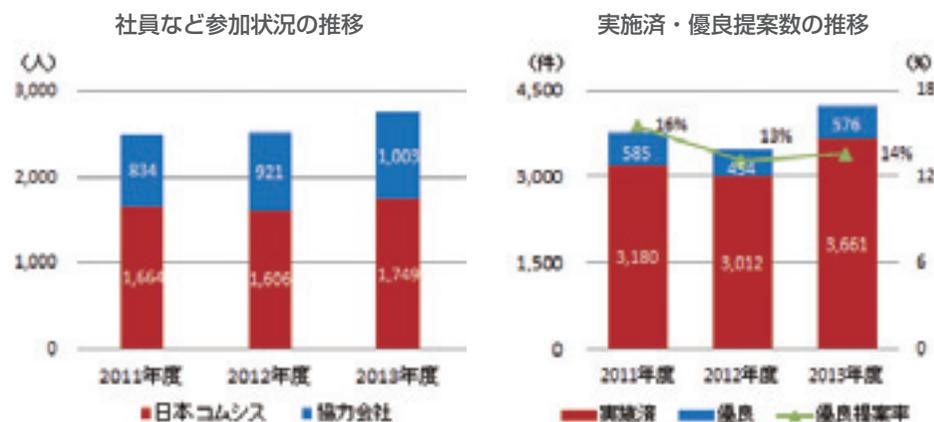
CSSでは、2007年以降、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の徹底、ムリ・ムダ・ムラの排除、処理時間の短縮や業務精度向上などに着眼したカイゼン活動を継続しています。2013年度は、18チーム、135名が参加し、毎月の活動進捗報告、年2回の活動発表会を実施しました。全社の情報を共有することで、各拠点での水平展開が実現されています。この活動を通して、事務処理作業の効率化、標準化を推進し、その結果をSOP（業務処理標準手順書）にまとめ、多能工化の実現とともにグループ内共通業務の集約化を進めています。

メモ提案 日本コムシス

一品質へのこだわり

メモ提案とは、現場の社員が自分の職場を良くするために仕事のやり方に創意工夫をし、その結果を個人が提案するもので、日本コムシスで40年以上続いている社内制度です。メモ提案は1年中受け付けており、現在では協力会社も含めて取り組んでいます。

2013年7月からは、これまでに集まった約30,000件の提案に、より良いアイデアを加えて提案する「まねっこ提案制度」を開始しました。自分が過去に提案した内容をブラッシュアップして再提案したり、他の社員が出したアイデアに、各現場での創意工夫をプラスして提案することで、さらに良いやり方を模索していこうというものです。また、各提案にコメントを入れる仕組みを導入し、普段は直接顔を合わせる事のない現場社員の意見を集めることが可能になりました。こうした試行錯誤により参加人数が増加し、提案の質も向上しています。



QC (Quality Control) 活動 日本コムシス

—品質へのこだわり—

日本コムシスでは、チームを組んで問題意識を持ち、現場でできる範囲の中からさまざまな提案や仕組みづくりを実践し、効果が上がった事例を広く社内に展開して付加価値の最大化を図るものとして、「QC (Quality Control) 活動」を実施しています。

以前は、年に一度のコムシス全国改善活動発表会に向けて、QC活動に取り組んでいるという意識がありましたが、発表の有無に関わらず継続して内容を検証してほしいという思いから、2012年からは上位3チームに継続してその取り組みの効果を報告してもらう制度を設けました。また、TV会議での配信を開始したことで、遠隔地のため会場に足を運べない社員でも情報を共有することが可能になりました。

現在、現場だけでなく管理部門からもさまざまな提案が出されるようになりました。

さらに、社員から出た良いアイデアは事業部だけで終わらせるのではなく、社内での情報発信やWebサイトでの公開、試作品の配布などを行い、水平展開を目指しています。また、協力会社を含め、社員全員が取り組むことで提案の質と量の向上を目指し、現場の業務改善につなげていきます。

—品質へのこだわり—

通信機器設定作業の大幅な品質改善に貢献～「RAKUダ」ツールの開発～ 日本コムシス

ドコモ事業本部ネットワークエンジニアリング部では、NTTドコモ様の携帯電話基幹ネットワーク構築工事全般を担当しています。その中でも、各種通信機器（サーバー、ルーターなど）設定作業では、ドコモ様から発出された数百ページにおよぶ膨大なマニュアルを基に、設定ミスが発生させないために2人1組体制にて作業を実施しています。しかしながら、マニュアルの確認不足による手順誤りやキータイプミスによる設定誤りなどのヒューマンエラーを発生させやすい状況でした。

そこで、設定作業における品質向上および作業効率化を目的に、日本コム

シス独自のツール「RAKUダ」を開発しました。

「RAKUダ」は、通信機器に設定するコマンドを事前にシナリオとして準備しておくことで、設定作業を対話形式で進めることができ、ワンクリックでコマンド投入が可能となります。またこのシナリオは、同機器が複数台ある場合は繰り返し再利用できます。さらに、年々内容が複雑になるマニュアルに対応するため、コメント付与機能なども組み込まれており、作業員に対して注意喚起ができる仕組みとなっています。これにより経験が浅い作業員でも安全かつ効率的に作業を進めることができます。

「RAKUダ」開発後には、全国のドコモネットワーク系工事従事者向けに研修会を行い、水平展開および機能改善に努めました。現場の要望をさらに反映させることにより、より「使いやすいツール」を完成させることができました。

2013年4月の初期導入から1年が経った現在、全国16のTS（テクノステーション）のドコモネットワーク系工事従事者に対して、ほぼ100%の普及率を達成しています。さらに、ツール活用によって目に見える成果が表れており、設定ミスを大幅に削減し、品質向上と作業員の負担軽減に貢献しています。

今後もツールの改善を重ねることで、さらに品質向上・業務効率化に貢献できるものと考えています。

●現場の声

- ・設定コマンド投入時、読み合わせによる聞き間違いや手入力による打ち間違いがなくなり、誰が実施しても手順誤りなく作業できるようになりました。
- ・確実にコマンド投入できるので、経験が浅い作業員でも設定誤り防止が可能となり、お客様にご迷惑をかけることもなくなりました。

確かな技術力と積極的な改善提案が高評価を受けました TOSYS

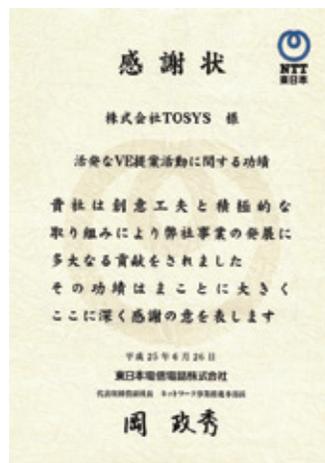
2013年6月11日に開催された「情報通信エンジニアリング協会（ITEA）第56回通常総会」において、第31回技術賞、第26回SKY選奨の授賞式が行われ、TOSYSの社員4名が出席しました。



第31回技術賞、第26回SKY選奨の授賞式

VE提案については、社員自らが日常業務における工夫・改善提案に積極的に取り組んでいます。

また、NTT東日本様の2013年度VE提案表彰において、TOSYSは「活発なVE提案活動に関する功績」として2013年6月26日に感謝状と副賞をいただきました。



VE提案表彰状

VE提案表彰は積極的なVE提案により、NTT東日本様に採用された会社別の件数で評価される表彰制度で、TOSYSからはVE提案が3件採用（11社で20件採用）され、通建会社トップの成績で「会社賞」受賞となりました。

品質向上のための技術開発

IT武装化（タブレット端末の活用） 日本コムシス

●NCPC

日本コムシスNTT事業本部ネットワークシステム部では、受注から竣工までをスマートICT化し、ネットワーク系の各種作業をサポートできる新施工管理システム「NCPC（New Construction Process Control）」を導入しています。

近年、ネットワーク系設備の高密度化、IP化に加え、発注が需要対応中心となり、小規模工事が増加していることから、施工マネジメントの効率化が課題でした。

NCPC導入後は、ワークフローを標準化し、ICT化することで、現場および管理部門がデータを共有し、全国の施工マネジメントが可能となり、安全・品質の維持向上に大きく貢献しています。

2013年度より東日本エリアのTS（テクノステーション）に導入し、タブレット端末を社員、班長へ配備し活用しています。

2014年度は西日本エリアについても本格運用を計画しており、更なる全国の施工マネジメントを「NCPC」にて具現化していく予定です。

●Darwin

ドコモ事業本部モバイルエンジニアリング部では、着工から竣工に至る業務の流れを一元的に管理できる仕組みを実現するため、ITプラットフォーム「Darwin」を設計し、運用しています。このDarwinは、営業から保守までのサプライチェーンを一気通貫で見通せるシステムとなっており、2012年2月から部分的に運用を開始し、2013年度には全国の各支店にも導入を完了しました。

現在、更なる効率化を図るため、タブレット端末を用いたモバイル版（Darwin Mobile）の運用も順次開始しており、2014年中に全国で1,000台が稼働する予定です。

タブレット端末を用いたDarwin Mobileには、統一化されたワークフローが存在し、1日の作業と常に連動しながら、表示する・入力する・写真を撮る・録音する・通信する・時間を記録すると1台で多くの役割をこなすことができます。

このタブレット端末を通して、Darwin Mobileに蓄積された、数万件の現場作業工程データをデータベース化することで、作業内容毎に最適な作業方法を追求していきます。

全数写真検査 日本コムシス つうけん

—品質へのこだわり—

日本コムシスでは、作業効率と品質向上を目的とし、「全数写真検査」を実施しています。

つうけんの写真検査システムは、設計、施工、施工管理、施工班の役割を明確にし、業務をCSM的〈供給連鎖管理〉に管理する「プロセス管理システム」に「写真検査システム」を連動させたシステムとなっています。

設計で設備番号単位に工程集計した設計データを、施工管理が施工班の割り付け・施工指示に活用しています。作業班は撮影指示情報（場所、撮影パターンなど）を受信し、指示情報を基に撮影することで撮影漏れがなく、撮影後の編集稼働も一切ありません。また、撮影後の写真を施工管理が確認することで施工品質の向上、完成図の精度向上につながっています。

2013年10月1日より、各事業部に配属されていた写真検査員を品質保証センターに集約し、検査員の稼働、検査スキルの標準化、および品質向上を図りました。また、社内システムに開設された「写真検査フォーラム」では、現場からの質問、意見提起、改善提案などへの回答、写真検査の写真撮影方法などを公開し、社内およびつうけんグループ関係者全員が閲覧できるよう情報共有を図っています。

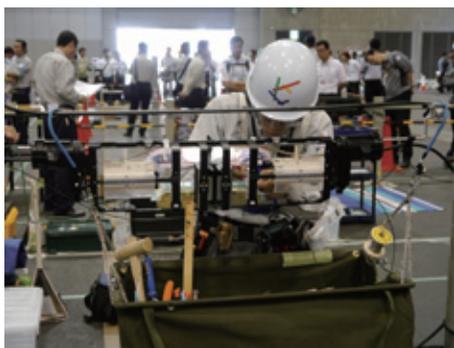
技能競技大会を通じた作業スキルの向上 コムシスグループ

—人づくり—

コムシスグループ各社では、さまざまな技能競技大会を通じて人材の育成と品質の向上に努めています。

各競技大会では技能者の施工技術や技能レベルを競い合うだけでなく、情報通信工事技術の向上や日々進化する材料・工法を、全社へ浸透・展開させることを目的に実施しています。

各エリアの技術者を競わせ切磋琢磨さ



第8回光通信工事技能競技会の様子

せることにより、技術者のモチベーションを高め、グループの技術力強化と向上、技術交流を図っています。

アクセスデザインコンテスト つうけん

—品質へのこだわり—

「第4回アクセスデザインコンテスト」が2013年11月8日、NTT東日本研修センター（東京都調布市）において開催されました。

参加18社22チームの競技となり、つうけん神奈川事業部の木田選手、道東事業部釧路事業所の片山選手が見事、準優勝に輝きました。



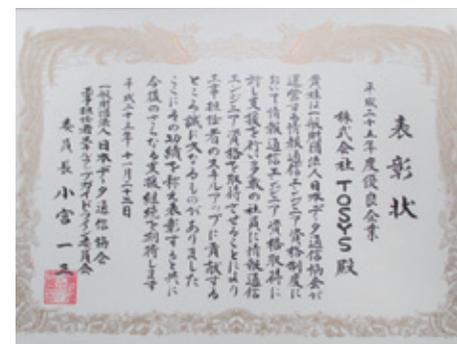
コンテスト会場の様子
木田選手（左）・片山選手（右）

情報通信エンジニア優良団体表彰 TOSYS

—人づくり—

2013年11月22日、一般財団法人日本データ通信協会から「情報通信エンジニア資格の取得に積極的に取り組んでいる」として、4年連続してTOSYSが「平成25年度情報通信エンジニア優良団体表彰」を受賞しました。

この表彰の概要については、一般社団法人情報通信エンジニアリング協会（ITEA）のWebサイトで紹介されました。



「情報通信エンジニア優良団体表彰」表彰状

お客様満足度向上に向けた取り組み

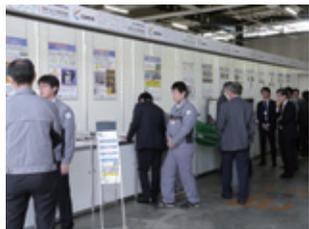
お客様とのコミュニケーション

各種フォーラムへの出展

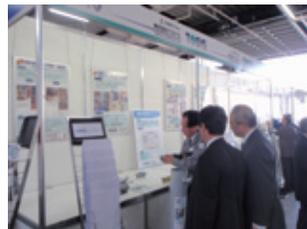
●つくばフォーラム2013 **日本コムシス** **TOSYS** —品質へのこだわり—
2013年10月17～18日の2日間にわたり、NTTアクセスサービスシステム研究所・つくば国際会議場において、「新たな価値創造へ 技術をつむぎ、明日を支えるアクセスネットワーク」をテーマに「つくばフォーラム2013」が開催されました。

日本コムシスでは、「引き込みポールベース」「傾斜計77」など、さまざまなデモンストレーションや展示を行いました。

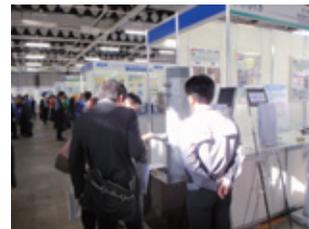
TOSYSからは、第26回SKY選奨を受賞した開発品を中心に「電柱補強板（中間部・地際用）」ほか5点を展示・紹介し、多くの皆さまから好評をいただきました。



日本コムシスブースの様子

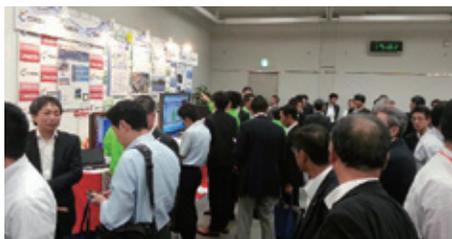


TOSYS ブース



電柱補強板

●西日本ICTフォーラム2013 **日本コムシス** —品質へのこだわり—
2013年9月18～19日の2日間にわたり、マイドームおおさかで「西日本ICTフォーラム2013」が開催されました。参加企業の相互交流促進を目的とするこのイベントに、日本コムシス



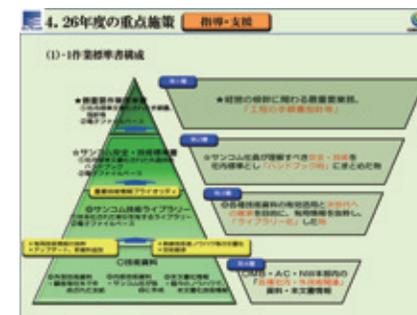
西日本 ICT フォーラムの様子

は、ITインフラを持たず、月額で利用できるクラウドサービス「Lifestyleクラウドサービス」などを出展しました。フォーラムは盛況で、2日間で292名が来場されました。

作業標準書の運用 **サンコム**

—品質へのこだわり—

サンコムが所有する、NCC工事に関する各種技術ならびに安全資料の有効活用と次世代への継承を目的として、「最重要作業標準書」「サンコム安全・技術標準書」「サンコム技術ライブラリー」という3つのカテゴリーに分類したサンコム技術安全標準を定めました。



作業標準書

サンコム社員およびパートナー会社全員が絶対に守らなければならないものを「最重要作業標準書」とし、カテゴリーの頂点に置いています。

作業標準書の果たす役割

サンコムは、KDDIグループ様やソフトバンクグループ様など、NTT様以外の複数の電気通信事業者などをお客様として、品質の面で「NCC分野 断トツ No.1」になることを目標に事業展開を図っています。



サンコムシステムズエンジニアリング
エンジニアリング統括本部
安全品質管理本部長
森 智嗣

これまで工事の管理については、お客様から支給を受ける工事仕様を基に担当者が作業手順書などを個々に作成・管理していたため担当者のスキルに頼る傾向が生じており、社内におけるノウハウの蓄積が課題となっていました。そこで、会社がこれまでに培って

きた技能と個々の社員の持つノウハウを全社的に共有するため、「作業標準書」として取りまとめました。

まず取り組んだのは、トップカテゴリーとなる「最重要作業標準書」です。経営の根幹を揺るがすような重大事故を回避するため、絶対に守らなければならないルールを定め、サンコム社員だけでなく協力会社の皆さんも含めた遵守徹底を目的としています。そのため、一度説明するだけでなく、技術的な継承も含め繰り返し反復することで、確実に身に付くよう指導しています。

また、2ndカテゴリーの「安全・技術標準書」については、新入社員や若手社員など経験の浅いスタッフも理解できるよう、初歩的な安全管理や技術内容まで分かりやすく解説しており、さらに3rdカテゴリーの「技術ライブラリー」については、すべての社員が容易に技術にアクセスできる仕組みとしています。

この「作業標準書」はリリースしたばかりで、まだまだ発展途上にあるのですが、関係各所からの意見を取り入れてバージョンアップするとともに、高いレベルで安全・技術を維持し、サンコムの財産として継承できるよう管理・運用していきます。

山梨通信システム事業部の発足 TOSYS

—継続的なBPR—

TOSYSにおいて、2013年7月に発足した山梨通信システム事業部は、南アルプス事業所（エンジニアリング業務）と山梨西部サービスセンタ（メンテナンス業務）で構成されています。TOSYSとしては、新天地での業務遂行となりますが、協力会社の皆さまときめ細かなコミュニケーションに努め、「安全と品質」の確保を図っていきます。さらに、2014年以降NTT東日本様の構造改革が実施される予定となっており、支店機能の広域化が見込まれています。今後の事業環境の変化に対応しNTT様に代わる地域の通信設備会社として、メンテナンス業務（故障修理、設備保全）を一括実施する体制とさらに上流工程のスキルの醸成も考えています。



山梨通信システム事業部外観



山梨通信システム事業部開所式

飯田エリア所外設備運營業務委託開始 TOSYS

—継続的なBPR—

TOSYSでは、飯田サービスセンタが開設され、飯田エリアでのメンテナンス受託業務が2013年4月1日から本格的にスタートしました。長野県内では、飯田エリアでNTT様からの外部委託が8拠点目となり、当社としては6拠点目のサービスセンタ開設となりました。



所外設備運營業務 委託開始式集合写真

コムシスグループ唯一の海外展開 サンコム

—継続的なBPR—

サンコムの海外事業における歴史は古く、1963年のインドネシアにおけるマイクロ波通信設備の建設工事に始まり、以来、半世紀にわたり世界50カ国以上で数多くの施工実績を築いてきました。現在ではインドネシアの首都ジャカルタに支店を置き、一括工事請負のほか、エンジニアリング業務、現地調査、技術者派遣など、国内事業と



マイクロ無線工事（インドネシア）

同様に幅広い事業を展開し、光通信ネットワークの構築、海底ケーブル陸揚げ局工事、マイクロ波通信設備の建設、プラント通信設備およびセキュリティシステムなど、国際的なネットワークとシステム構築に大きく貢献しています。

○ 協力会社との取り組み

パートナー会社連絡会 COMJO

—継続的なBPR—

COMJOでは、2014年2月28日、主要パートナー会社の経営層を対象に、COMJOの事業概要、主要マーケット動向とビジネス展望について説明するとともに、今後の事業の発展・拡大に向けて協力関係を強固にするための連絡会を開催しました。



パートナー会社連絡会

2013年度活動報告

ステークホルダーのさまざまな期待に応え、ともに社会的価値を創造していくための施策

環境

地球環境課題の解決に向けて

事業活動や社会貢献活動を通して環境負荷低減を目指した、さまざまな取り組みを行ってます。

基本的な考え方

コムシスグループにおいては、太陽光発電システムなどの環境配慮技術を利用した事例が増加しており、情報通信と並ぶ重要な社会インフラとして、また、「事業を通じた企業価値の創出」が可能となる新たな分野として、事業活動を通じた省エネや温室効果ガスの低減を目指す取り組みに注力しています。私たちは地球市民の一人として、新たなビジネスの可能性という観点も常に持ち合わせながら、「コムシスの森づくり」など生物多様性の維持といった課題も含めた地球環境問題について、積極的に関わっていきたくと考えています。

温室効果ガスの削減に向けた取り組み

太陽光発電システム導入の取り組み

—品質へのこだわり—

自社ビルに太陽光発電システムを導入

日本コムシス

TOSYS

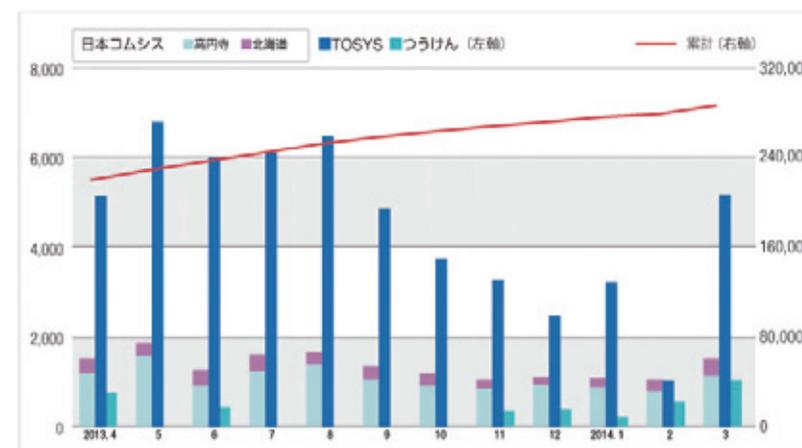
つうけん

オフィスでも実現可能な環境保全の取り組みとして、コムシスグループの拠点に太陽光発電システムを導入しています。日本コムシスでは、コムシス高円寺ビル（最大出力10.8kW）、コムシス大宮ビル（最大出力5kW）、コムシス北海道ビル（最大出力3.4kW）に太陽光発電システムを導入し、得られたエネルギーをオフィスで利用しています。また、TOSYSでは本社ビル屋上に最大出力50kW、つうけんでは厚別ビルに最大出力10kWの太陽光発電システムをそれぞれ導入しています。2013年度はコムシスグループで約41t-CO₂の二酸化炭素削減効果を実現しました。

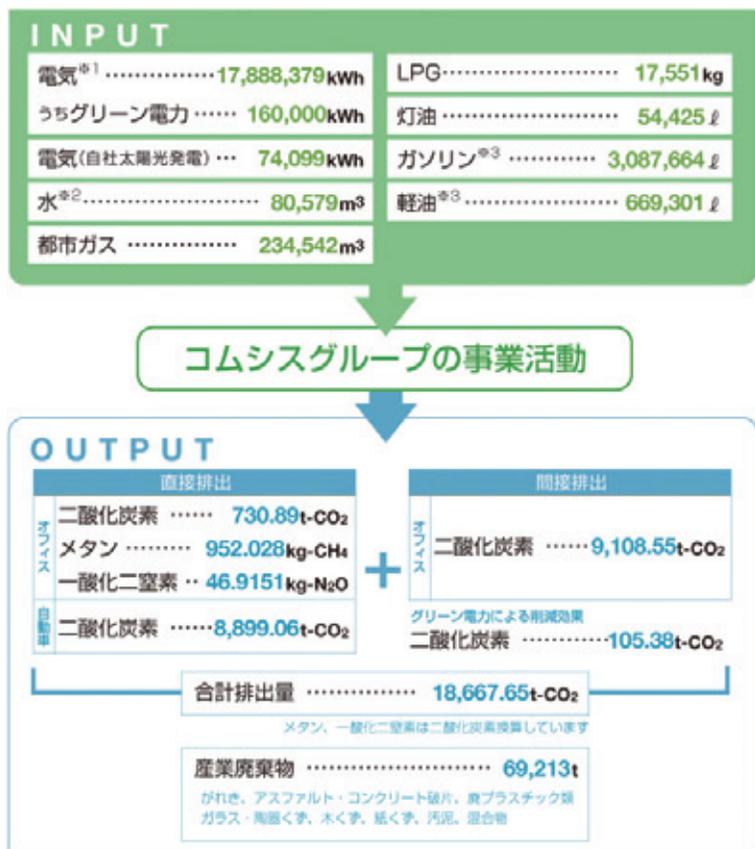


工場や倉庫の屋根に並ぶ太陽光パネル

● 発電量の推移(kWh)



◯ コムシスグループのマテリアルバランス



対象：コムシスグループ各事業会社の本社ビル、支店ビル、一部のTS（テクノステーション）
 ※ 1：個別メーターがないフロアでは面積按分値を使用しています
 ※ 2：入居ビル賃料に使用量が含まれる場合は対象外としています
 ※ 3：各社のリース車両による燃料使用量を対象としています

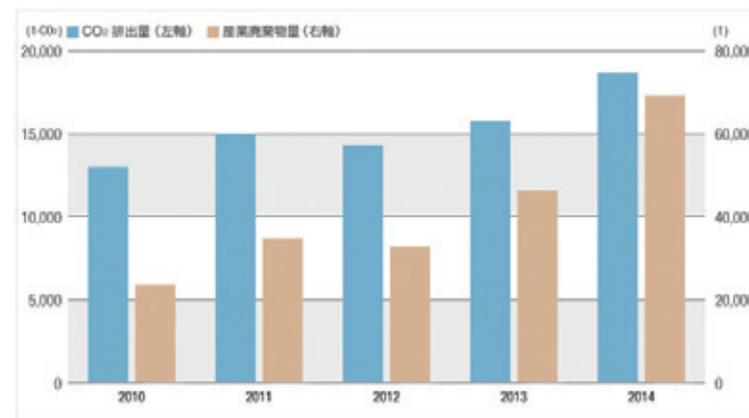
温室効果ガスの削減に向けた取り組み コムシスグループ 一品質へのこだわり

CO₂排出量の削減には太陽光発電システムの構築といった環境対応型の事業や製品を通じた方法もありますが、コムシスグループでは「ISO14001」を活用した環境マネジメントシステムを運用しながら、CO₂排出量の削減をはじめとする環境負荷の低減にも取り組んでいます。

コムシスグループの事業は「エンジニアリング事業」と「ICTソリューション」に分けられますが、業務の徹底的な効率化を図る全社的な「カイゼン」の取り組みにより、CO₂排出量の継続的な削減が図られています。作業現場では、工事作業車などによるエコドライブの徹底や省エネ効果の高い作業機材の使用を通じて、また、各オフィス・作業所では節電対策など（太陽光発電システムの導入を含む）を通じて削減を図っています。

一方、社員がボランティア参加して植林を行う「コムシスの森づくり」などを通じ、生物多様性を含む地球環境の保全に関する理解を深める活動なども続けています。

グループ全体のCO₂排出量と産業廃棄物量の推移 コムシスグループ 一品質へのこだわり



○ オフィスその他における取り組み

—品質へのこだわり—

タブレット端末によるペーパーレス化 **日本コムシス** **サンコム** **COMJO** **CSS**

日本コムシス、サンコム、COMJO、CSSでは、タブレット端末を利用した高セキュリティの会議システムを社内で構築し、自社の経営会議などで運用しています。会議体改革とペーパーレス化を実現した新しいワークスタイルでさらなる効率化とオフィスの省資源化を目指しています。

消費電力の「見える化」 **サンコム** **つうけん**

—品質へのこだわり—

サンコムでは、本社ビルに電力量デマンド監視装置を導入しています。各階にモニターを設置して消費電力を「見える化」し、制限電力量を超えると空調設備が自動的に出力を制御する仕組みとなっています。

つうけんでも同装置を本社ビルに設置、設定電力をオーバーしたときにアラーム警告が発生するなど、最大需要電力量の監視・抑制を図っています。



「見える化」による消費電力表示（つうけん）

○ 節電への取り組み **コムシスグループ**

コムシスグループでは、グループ各所で節電に取り組んでいます。特に、つうけんでは、政府と北海道電力が要請した2010年度比6%以上の節電に対し、従来の節減取り組み（照明、空調、PCなど）を継続するとともに、さらに強化して節電に取り組み、本社および11事業所は2010年度比6%以上の節電目標を達成しました（実施期間 2013年12月から2014年3月）。

グリーン電力の購入 **日本コムシス**

—品質へのこだわり—

日本コムシスは、日本自然エネルギー株式会社から提供する「グリーン電力証書システム[※]」を採用しています。2013年度は本社において年間合計16万kWhのグリーン電力を購入しました。これは本社の年間電力使用量の約7.22%に相当します。

※グリーン電力証書システム：間接的なCO₂排出量削減効果を持つ自然エネルギーの「環境付加価値」を、自然エネルギー発電事業者が第三者機関の認証により「グリーン電力証書」という形で発行。証書を購入した企業の電力使用量のうちの購入相当量が自然エネルギーによるものとみなされ、その費用は自然エネルギーの普及に役立てられます。



資源の有効活用に関する取り組み

工事現場におけるリサイクル用品の活用 日本コムシス

一品質へのこだわり

日本コムシスでは、「ISO14001」の活動プログラムのひとつとして、所内系全現場で工事残材・事務所内廃棄物を分別処理することにより、リサイクル資源の保護に貢献しています。

グリーン購入の推進 日本コムシス COMJO

一品質へのこだわり

日本コムシス、COMJOでは、環境への負荷を考慮して事務消耗品におけるグリーン購入を推進しています。

●グリーン購入率

	2011年度	2012年度	2013年度
日本コムシス	86.8%	86.0%	83.2%
COMJO	82.9%	90.3%	79.1%

環境保全について考える取り組み

環境保護と生物多様性の維持に関する取り組み

コムシスグループの森づくり

日本コムシス サンコム TOSYS

COMJO CSS

一品質へのこだわり

コムシスグループでは、環境保全および地域貢献活動の一環として、森づくりの活動を行っています。

日本コムシス、サンコム、COMJO、CSSでは、コムシス森林サポーターとしての活動を実施しています。2013年度は、埼玉県毛呂山町大谷木字鶯谷地内などでの8.2ヘクタールにおよぶ



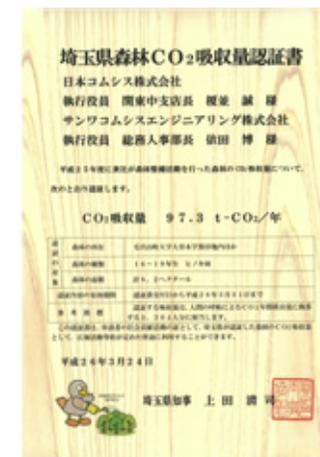
TOSYSの森林整備作業集合写真

枝打ちや間伐などによる森林保全活動の実績により、同制度において97.3t-CO₂/年のCO₂吸収効果が認められ、日本コムシスとサンコムに対し、埼玉県知事より「埼玉県森林CO₂吸収量認証書」を交付いただきました。97.3t-CO₂/年のCO₂吸収量は、304人分の呼吸による年間CO₂排出量に相当します。

TOSYSでは、2013年10月19日に毎年恒例となっている「TOSYSの森林」整備作業を行いました。

当日は、社長をはじめとして新潟・長野県内から約100名の社員が参加し、傷んだ歩道の再整備、下草刈り、倒木の処理などを手際よく行いました。

こうした森林整備活動の積み重ねにより社員の意識が向上しています。今後も、自然環境保全に少しでも役立てるよう継続して活動を行っていきます。



2013年度 埼玉県森林CO₂吸収量認証書

コムシス森林サポーターの活動

日本コムシス サンコム COMJO CSS

一品質へのこだわり

●第37回「全国育樹祭協賛」の感謝状

2013年で37回目を迎える全国育樹祭への協賛に対して、育樹祭埼玉県実行委員会上田会長より感謝状をいただきました。

全国育樹祭は、継続して森を守り育てることの大切さを普及啓発するために、1977年から毎年秋に行われています。

全国育樹祭では、天皇后両陛下がお手植えされた樹木を皇族殿下にお手入れいただくほか、式典などさまざまな行事が行われます。

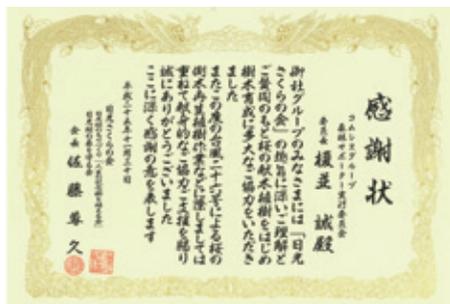
●第8回「霧降協働の森づくり」を開催

2013年11月30日、日光霧降アイスアリーナ場内において第8回「霧降協働の

森づくり」を開催しました。今回は、「日光さくらの会」「日光森と水の会」による桜の補樹事業により、2002年から日光霧降アイスアリーナに全国から献木されている桜600本のうち、立枯れしている100本の補植作業を実施しました。また、「日光さくらの会」より、コムシスグループ森林サポーターの桜の献木植樹や倒木補樹作業に対して、感謝状と記念品をいただきました。



霧降協働の森づくりの様子



霧降感謝状

緑の募金を実施 日本コムシス サンコム COMJO CSS 一品質へのこだわり

コムシス森林サポーターによる「コムシスの森林づくり」活動の一環として、年に1回「緑の募金」を実施しています。2013年度には、社員からの募金とそれに伴うマッチングギフトが合わせて1,431,720円集まり、各種活動に役立てられました。

「緑の地球ネットワーク」活動に関する賛助会員 CSS 一品質へのこだわり

CSSでは、中国・黄土高原における緑化活動や環境問題に取り組んでいる認定特定非営利活動法人「緑の地球ネットワーク」活動に対し、賛助会員として協賛しています。

ステークホルダーのさまざまな期待に応え、ともに社会的価値を創造していくための施策

労働慣行

働きがいのある職場環境を目指して

公正で働きがいのある企業を目指し、人材育成を進め、より良い職場環境づくりに努めています。

基本的な考え方

安全衛生や品質については、社員はもとより、工事子会社や協力会社の皆さんを含めた現場スタッフのスキルや仕事に対する意識、モチベーションの高さなどが大きく影響します。コムシスグループでは、「現場の視点」を尊重し、密接なコミュニケーションを通じて管理体制の維持・強化を図る一方で、「人こそ宝」という考えから、資格取得および各種研修などの機会を提供するなど「人財」の育成にも注力し、福利厚生制度の拡充と併せて働きがいのある職場環境の整備に努めています。

安心安全な業務体制

労働安全衛生マネジメントシステム

労働安全衛生マネジメントシステム コムシスグループ

—安心安全な業務体制—

事故によって尊い人命が奪われたり、ご家族を悲しませるようなことはもちろんのこと、事故を通して社会やお客様にご迷惑がかかるようなことは決してあってはならないことです。コムシスグループは、情報通信エンジニアリング業界のトップブランドとして労働安全衛生マネジメントシステムに則り、労働安全衛生に関する法令ならびに当社の安全衛生に関する規定を守り、全社員協力のもとに安全衛生の確保と水準の向上に継続的に努めています。

また、日本コムシスやサンコム、TOSYSでは、「OHSAS18001^{※1}」「COHSMS^{※2}」の認証登録を行い、安全憲章や安全方針を策定していますが、各社とも毎年、「事故撲滅」を最重要経営課題として掲げ、現場の工事などを担当する協力会社とともに、グループ全社を挙げて事故および労働災害の防止に取り組んでいます。

※1 OHSAS18001 (Occupational Health and Safety Assessment Series) : PDCAサイクルによって組織が労働者および関係者の労働安全と衛生に関するリスクを最小限にし、労働災害を予防していくための労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格。第三者認証機関による認証取得を受けることができます。

※2 COHSMS(Construction Occupational Health and Safety Management System) : 厚生労働省の「労働安全衛生マネジメントシステムに関する指針」に基づき、建設業労働災害防止協会が業界の実情を踏まえて作成したPDCAサイクルを通して、自発的に安全衛生水準の継続的向上を図るための建設業向け労働衛生マネジメントシステム。

労働災害発生度数率の推移 **コムシスグループ**

—安心安全な業務体制—



○ 労働災害・事故撲滅に向けた取り組み

安全大会の実施 **コムシスグループ**

—安心安全な業務体制—

「安全はすべてに優先する経営の課題事項であり、経営の要」という意識の下、各社で安全大会を開催しました。労働安全に対する意識の向上を図るとともに、各社の安全品質向上に向けた改善の取り組み発表ならびに各事業部代表による安全決意表明を行い、最後に参加者全員による「安全唱和」で締めくくり、参加者全員が事故撲滅の決意を新たにしました。また、人身事故防止に向けての危険体感デモ、自然災害、人身事故の被災者の実話ドキュメンタリービデオの視聴などを通じ、安全への意識を高めました。



日本コムシス安全大会



サンコム安全憲章唱和

今後もコムシスグループ一丸となり、事故撲滅に向けて安全品質の仕組みづくりを行っていきます。

安全巡視などの実施 **コムシスグループ**

—安心安全な業務体制—

人身・設備事故撲滅に向けて、コムシスグループ全体で各種取り組みを展開しています。現場で作業する社員などと社長との対話を重視したパトロールを行い、特に高所作業車の使用方法や作業内容について事故防止に向けた具体的な取り組みを確認することで、作業を行う社員一人ひとりの安全に対する意識の向上を図っています。

また、役員が定期的に安全パトロールを実施しています。2013年度日本コムシスでは25回の役員パトロールが行われました。

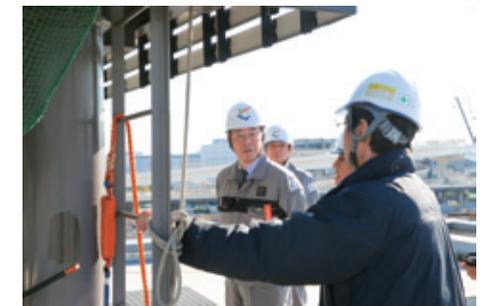
トップ安全キャラバンの実施 **日本コムシス**

—安心安全な業務体制—

日本コムシスでは安全推進強化期間中の特別施策として伊東社長が各地の現場を視察し、安全講話や現場従事者、協力会社社長との意見交換会を行いました。直接コミュニケーションを行うことで「1件も事故を起こさない」というトップの強い思いを現場に伝えています。



伊東社長によるトップ安全キャラバン



生麦 TS (テクノステーション) 視察の様様

サンコムでは、現場従事者の注意不足・思い込み・手抜き・ルール無視によるヒューマンエラーを防止するため、日常生活時に取る行動や考え方などについて問う簡単な性格判断テストを全国の現場従事者4,600名に対して実施しました。その結果を踏まえて、「性格の傾向」を現場作業での行動の傾向に置き換え、意識改善へのフィードバックを行い、弱い部分を補うことにより、安全意識の向上に役立てることができました。

また、ヒヤリハット（HH）収集運動を実施しています。各現場での実例を「天使の送りもの」と称した小冊子にし、事故の再発防止を目的に、痛みを伴った貴重な教訓を決して忘れてはいけないという思いを込めて、社員ならびに協力会社社員の全員に配布しています。

さらに、事故撲滅を目標とした「誓いのリストバンド」を配布しています。作業者へ事故防止への強い意識を持たせることを目的とする「赤」のリストバンドは、「まず確認、最後に確認」を定着させ、現場作業時に必ず実行することにより、確認不足や思い込みが要因のヒューマンエラーやヒヤリハットの発生を撲滅させることを目指します。また、「緑」のリストバンドは、緑十字の安全と安全作業へ突き進むことを意図しています。



小冊子「天使の送りもの」



緑のリストバンドと標語

サンコムでは、ご家族から勤務しているご主人やお父さんへ「無事に仕事から帰って」といった思いや愛情を手紙でいただき、作業者本人が「どんなに家族の方々に愛されているか」を自覚することで、「無事に作業を終え帰宅しなければならない」と心に刻んでもらう活動をしています。



「家族からの手紙」

安全衛生教育の実施

安全研修の実施 **日本コムシス** **サンコム**

日本コムシスとサンコムの各事業所では、現場第一線で働く従業員が絶対に事故を起こさないという強い意識の下、危険予知の定着などを目的するためのさまざまな講習を実施しています。

日本コムシスでは、2013年2月21日、関西支店（北陸）において、教習所から講師を招き、巻き上げ機、玉掛けに関して安全講習を開催しました。

講義中でも盛んに質疑応答があり、現在持っている技能のブラッシュアップならびに疑問の解消が図られました。また、参加者全員でウィンチ操作ならびに玉掛けの重要性を再認識し、安全意識の向上を確認しました。



直流電源模擬装置



アンカー打ち施工訓練

サンコムでは、さらなる品質向上を目指し、重大事故要因となる電源工事やアンカー施工における事故防止を目的として、体に染み込むように覚えさせる体験型の基本動作の徹底を全国で実施しました。直流電源模擬装置は繰り返し研修ができるよう全国に配備、アンカー施工については実際の全作業者の体験訓練を通して確認行動の重要性を再認識することができました。



巻き上げ機・玉掛け安全講習開催

交通安全への取り組み コムシスグループ

ドライブドクター 日本コムシス

—安心安全な業務体制—

交通事故削減とコスト削減に貢献

ドライブドクターとは、車内に設置したドライブレコーダーが取得した運行情報を一元管理するシステムです。取得したデータを個人ごとに集計し、日報や月報として運行情報をひと目で分かるようにしています。現在は、日本コムシスが所有する車両約1,000台でドライブドクターを導入しており、グループ会社や協力会社にも導入が広がりつつあります。



ドライブドクターの利用表示

日本コムシスでは、2011年度より「ドライブドクター」を導入し、2年が経過しました。

導入後の効果や今後の目標などを報告します。

日本コムシスでは、現場での人身事故や設備事故と同様に、交通事故撲滅に向けてさまざまな施策を講じてきました。

ドライブドクター導入前は、教育の一環として安全運転を指導してきましたが、導入後は、個人・事業所ごとに定量的な安全評価と定性的な指導が可能となり、より効果的な安全指導が実現しています。さらに、メカニカルな啓発だけでなく、交通安全標語を募集して「かもしれない運動」を徹底するとともに、車体には利用者の名前を掲示するなど、ハード・ソフト両面で安全意識を高めています。

また、安全運転は企業の価値やイメージを守るだけでなく、急発進、急ブレーキの減少によるガソリンなどの燃料費削減にも効果があることが判明し、実際に2013年度は年間で約2,000万円のガソリン代を削減することができました。交通事故の減少や省エネ効果だけではなく、CO₂削減など環境面でも効果が表れてきているといえます。さらに、事故が減ることによって損害保険の割引率が上がり、保険料が下がるという効果も見えてきました。

本格運用から2年が経過し、今後は個人のデータ分析による特性診断や事故抑制、システムチックな燃費改善が可能かどうかなど、次のステップに向けた取り組みを加速していきます。

●管理責任者の声

ドライブドクターの導入当初は、走行中のアナウンスが耳障り、乗車時の設定が面倒といった、多くのクレームがありましたが、操作説明会、導入の主旨、目的などを説明し、全社を挙げて安全意識の向上に努め、今では積極的に利用されています。

何より喜ばしいのは、スピード超過に気を付ける、車間距離を保つといった運転者の意識改革にかなりの効果があったということです。

今後も加害事故「ゼロ」と地球にやさしいエコ運転を目指していきます。



日本コムシス
安全品質管理本部
安全品質管理部長
高橋 義昭

コムシスグループでは、事業を遂行するために多くの自動車を利用しています。

日本コムシスでは、年に数回、最寄りの警察署などから講師をお招きし、事故事例を交えながらの交通安全講習会を開催。参加者は交通事故「ゼロ」への決意を新たにしています。

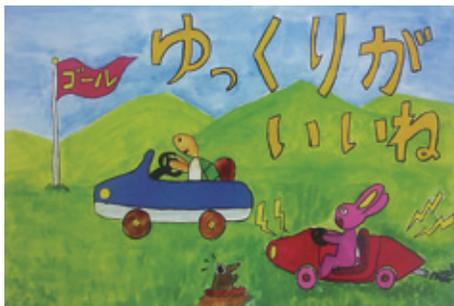
2014年1月29～30日、NTT長野支店の開催による「厳冬期における蓼科エリア通信復旧訓練および女神湖での雪上運転訓練」には、TOSYSにも参加要請があり、代表者3名が参加しました。

サンコム本社では、杉並警察署から警察官をお招きし、社内の交通事故発生状況および警視庁管内の交通事故発生状況、自転車の安全利用、飲酒運転撲滅啓発ビデオなどを用いて安全運転講習を実施しました。また、警視庁主催の「セーフティドライバー・コンテスト」に43チーム215名、広島県警主催の「トライ・ザ・セーフティ in ひろしま」には5チーム25名が参加し、コンテスト期間内の無事故無違反の達成を競い合っています。

そのほか、工事現場を完成させるために多くの車両を利用しているサンコムグループで働く全員の交通事故の撲滅を目的として、毎年秋の全国交通安全運動に合わせて「サンコム安全運転ポスターコンクール」を開催しています。毎年、ご家族の皆さまから交通安全への願いを込めた多くの作品の応募があります。



女神湖の氷上走行訓練とプロの運転によるデモンストレーション走行



安全運転ポスター

メンタルヘルス・マネジメントを強化

メンタルヘルス研修の実施

コムシスグループ

—安心安全な業務体制—

コムシスグループでは、職場のメンタルヘルス強化の取り組みとして、職場内でのメンタルヘルスの現状やストレスと上手に付き合う方法について毎年メンタルヘルス研修を行い、ストレスケア、同僚の異変に気付く方法などの健康サポートを行っています。また、社員からの心の悩みなどの相談については、専門家によるカウンセリングを電話や面談を通じたフォロー体制により実施し、健康管理に努めています。

メンタルヘルスチェックの実施

日本コムシス

—安心安全な業務体制—

日本コムシスでは、メンタル不調による休職者およびメンタル不調予備軍は、コムシスグループでも年々増加の傾向にあることから、新たなメンタルヘルスチェックを導入しました。

このチェックシステムは、本人がWebサイトで100項目ほどの質問票に答えることによって診断表が出され、診断表に記載されている自身のメンタル状態を客観的に段階別で把握できるようになっています。必要に応じてメンタルヘルスチェックの運営者（外部委託先）からフォローメールが送信され、e-ラーニングやカウンセリング受診を行うことで改善を図るシステムになっています。また、診断結果が良好な社員にも、e-ラーニングやカウンセリング受診は有効で、現在の状況を客観的に把握することによって健康状態を保つことで、本人の活性化に役立てられると考えています。

衛生推進室設立 **日本コムシス**

—安心安全な業務体制—

日本コムシスでは、以前から社員の健康管理には十分に注意を払ってきましたが、さらなる衛生管理・勤務管理の推進を目的として、2013年4月に衛生推進室を発足しました。

近年、特にメンタル面での不調を訴える人が増加傾向にあるといわれており、当社でも不調になる社員が散見されています。原因としては、仕事量が集中してストレスがかかることや、家族や友人関係などのプライベートな問題により、精神的な負担が増えてメンタル面での不調に陥るなど、状況は単純ではありません。

そこで、不調に陥る前に少しでも負担が軽くなるように、メンタルチェックを受けて客観的に自分の現状を把握し、必要であれば産業医の診断を受けられるようにするなど、相談しやすい環境を整備するのが我々のミッションとなっています。

また、管理職の皆さんには、ご自身だけでなく部下の様子も客観的に把握できるような「気付き」など、メンタルチェックにつながるさまざまな研修を受講していただいております。今後のマネジメントに活かしていただきたいと願っています。

● **スタッフからのコメント**

まずは何よりも健康第一です。何か不安に思うことがあれば遠慮なく相談してください。

また、カウンセリングも積極的に受けてみてください。



日本コムシス
人材育成部
衛生推進室長
安永 敦

カウンセリングは2親等までのご家族も受けることが可能ですので、社員の親御さんからのご相談も受け付けています。ぜひご利用ください。

また、若手社員の皆さんは入社時の体重を維持できるように健康管理に留意してください。



日本コムシス
人材育成部
衛生推進室 課長代理
石橋 賢一

人材育成○ **社員のレベルアップに向けた取り組み****階層別研修の実施** **コムシスグループ**

—人づくり—

コムシスグループでは、キャリアアップを目的として階層別研修を実施しています。新規採用者（グループで約60名）や入社から1年後のフォローアップ研修（グループで約70名）、若手社員の3年目のフォローアップ研修（グループで約40名）、また、中堅社員や管理者を対象とした研修など、各ステップアップ時にさまざまな研修を実施しています。



フォローアップ研修の様子 1年目



フォローアップ研修の様子 3年目

技術伝承のための施策

●チューター制度 日本コムシス

—人づくり—

日本コムシスのNTT事業本部アクセスシステム部東京工事事務所では、発注元や現場に携わるすべての人たちに信頼され、どのような場面でも設計から竣工までを円滑にマネジメントできる柔軟な人材を育成するため、「チューター制度」による若手社員育成を行っています。



チューターから材料について教わる若手社員

そのためまず、入社～3年目までの社員は、現場に出て徹底的に現場作業を行い作業を体で覚えていきます。施工になれてきた段階で、所長・班長によるスキル評価および本人へのフォローアップを経て次のステップへスキルアップしていきます。

この取り組みを始めた2年前には、主に連結会社の班長から指導を受けていましたが、現在では、日本コムシスの7年目社員を中心にチューターとなり、若手社員に技術指導できる社員が10名以上育ってきました。

●メンター制度 日本コムシス

—人づくり—

日本コムシスのドコモ事業本部は2008年よりメンター制度[※]を実践しており、入社1～3年生を弟・妹、5～6年生を兄・姉、現場代理人以上は長男・長女、担当課長以上を親として、社歴の浅い社員の支援活動を行っています。



成果発表会の模様（手前が兄・姉）

弟・妹は上司とは別の相談相手ができることで、業務上必要なスキルを身につけることができ、また、指導・育成に

あたる先輩社員にとっても、マネジメントの技術を身につける良い機会となります。

また、支援活動の成果は、毎年複数回開催される成果報告会で発表します。この成果報告会では、自ら発表を行い、他人の発表を聞くことで

- ・自分の意見を的確に表現することができるようになる
- ・他人の発表に対する意見を言えるようにする
- ・親兄弟から発表のアドバイスを受けることによりコミュニケーションの場になり、若手社員不安解消の一助とする

ことを目的としています。

発表者からは「他部署の業務内容が理解でき、自分の業務内容にも活かせることに気付いた」「上司に自分たちのレベルを知ってもらった良い機会になった」、メンターからは「各個人のパーソナリティが理解でき、コミュニケーションの促進に役立った」「成果発表は、お互いのプレゼン能力の向上にも役立つ」などの声が寄せられ、年々効果が高まっています。

今後も、メンター制度を活用して若手社員の育成に取り組んでいきます。

※メンター制度：豊富な知識と職場経験を有した社内の先輩社員（メンター）が、後輩社員に対して行う個別支援活動。キャリア形成上の課題解決を援助して個人の成長を支えるとともに、職場内での悩みや問題解決をサポートする役割を果たす（厚生労働省資料より）

日本コムシスのNTTアクセス系工事において、稀少技術のひとつであるスタルペスケーブル* 接続の研修についてご紹介します。

※以前からあるメタルケーブルの一種で、1970年代に敷設された固定電話用のメタルケーブル。

今後も10万kmに及ぶ地下メタルケーブルの維持・保守の技術が必要となる。

稀少技術とは？

技術者が少なく、今後人員減耗などで維持が困難になると想定される技術、工事が少なく技術の維持が困難な技術のこと。

研修の目的

今回研修を行った地下スタルペスケーブルは、1970年代に敷設されたケーブルですが、現在では、固定電話の利用率低下と光ファイバケーブルの普及により、新設工事で技術者を育成することは困難な状況になっています。

また、東日本大震災でスタルペスケーブルを含む地下メタルケーブルが壊滅的な被害を受けたことや、2020年の東京オリンピック開催に向けた不良設備の更改により工事が増えると想定されますが、現状では技術者不足により十分な対応ができない状況であることから、技術伝承が急務となってきました。そこで選抜された若手実力派メンバー（20代前半から30代）を対象に研修を実施しました。

研修の内容

現場で使える技術は、「現場に近い状況で研修を行ってこそ身につくもの」との考えから、6～7名の少人数制で座学2日・実技5日の計7日間で実施し、理解度テストを4回行いました。

座学では基礎部分を解説するとともに、メタルケーブルを触る上で必須となるガスの目的と保守の仕方、スタルペスケーブルの構造・特徴・取扱い方法、建設保守の仕方や工事を行う上で知っていると助かる工夫など最低限度の知識を伝授しました。

また、実技では本番さながら、実際にマンホールに入って設備に触れながら研修を進め、その様子はWebカメラを設置して確認できるようにしました。

メタルケーブルのプロフェッショナル2名の指導のもと、参加者は本番同様の設備や工具、試験機を使用し技術の習得に真剣に取り組みました。今後もこのような機会を設けて技術を伝承したいと考えています。



実習室での接続訓練



模擬マンホール内での接続作業

技術向上に向けた訓練の実施

サンコム

—人づくり—

サンコムモバイル本部では、訓練用アンテナ基地局を設置し、社員およびパートナー会社のアンテナ・電源などの無線系工事の技術力継承と、新たな無線技術者の育成に努めています。また、高所作業・活線作業などに対応した実践的な訓練の場として、現場の安全・品質向上に役立てています。



訓練基地局



訓練の様相

班長セミナー開催

日本コムシス

—人づくり—

日本コムシスでは、全認定班長に対し、現場第一線の監督者として指示処分、改善勧告阻止に向けた人身・設備・交通事故を絶対に起こさない意識をはじめ、現場指導力の向上、リスクアセスメント、安全施工サイクルなどについての研修を行っています。



班長セミナーの様子

CS向上研修を実施

日本コムシス

—人づくり—

日本コムシスでは、宅内工事におけるお客様満足度（CS）向上を目指し、一般常識的なマナーから、お客様対応時のマナーまで再確認し、一人ひとりの意識を高めるためのCS向上研修を実施しました。

システム基盤構築研修を実施

COMJO

—人づくり—

COMJOでは、2012年度に引き続きシステム基盤構築の強化研修を実施しました。研修では、LinuxベースのWebシステム構築技術、システム基盤の設計手法など、ソフトウェア開発以外の新技術を中心に、実習を交え、より実践に近い最新技術を学びました。



システム基盤構築研修を開催

プロジェクトマネジメント研修を実施

COMJO

—人づくり—

COMJOでは、プロジェクト管理レベルの向上、不採算プロジェクトの撲滅を目的にプロジェクトマネジメントスキルを高める研修を行っています。



プロジェクトマネジメント研修を開催

2013年度は、外部講師を招いて、プロジェクトリーダーを中心に「プロジェクトマネジメント研修」「見積研修」を実施し、合計154名が受講してスキル向上を図りました。

ビジネスマナー関連研修の実施

CSS

—人づくり—

CSSでは2013年度、外部講師を招いてビジネスマナーのブラッシュアップ研修を実施しました。2回の研修では、社員の半数に当たる70名以上が受講。事前に自社の電話対応の品質を数値化した上で、研修当日は、お問い合わせいただくお客様に、よりご満足いただ



研修の様子

けるような対応の実習を重点的に行いました。CSSでは、ビジネスマナーをはじめとしたベーシックスキルを一層向上させ、グループ内外のお客様に一層信頼をいただけるサービス提供、人材育成を目指しています。

資格取得の推進 コムシスグループ

—人づくり—

コムシスグループ各社では、社員の資格取得に積極的に取り組んでいます。

日本コムシスでは、業務に関わるさまざまな資格取得を推奨しており、資格の種類によっては取得に際して一時金を支給しています。

主な資格保有者数は3,002名で、中でも、技術士10名、ITコーディネータ5名、シスコ技術者認定 CCIE82名、LPI OSS-DB Gold2名、Red Hat Linux 認定技術者 RHCA1名、VMware社認定VCI 3名、VMware社認定 VCAP4名を主要資格として位置づけています。このうち、2013年度の取得者数は、ITコーディネータ2名、シスコ技術者認定 CCIE3名、LPI OSS-DB Gold1名、VMware社認定 VCAP3名となっています。

サンコムでは、毎年数多くの社員が資格を取得しています。

2013年度においては、AI/DD総合種（工事担任者）1名、衛生管理者（第1種）3名、建設業経理士（1級）1名、建設業経理士（2級）2名、情報処理技術者（ネットワークスペシャリスト）1名、電気工事士（第1種）3名、電気工事士（第2種）11名、電気工事施工管理技士（1級）1名、電気工事施工管理技士（2級）1名、土木施工管理技士（1級）2名、土木施工管理技士（2級）1名、秘書技能検定（準1級）1名、陸上特殊無線技士（1級）15名の合計43名がそれぞれ資格を取得しています。

TOSYSでは、会社が推奨する資格取得については、取得費用負担、取得一時金を支給しており、また、社外研修会や講習会へ積極的に参加することによって、一般財団法人日本データ通信協会から「情報エンジニアリング資格の取得に積極的に取り組んでいる」として表彰されました。

2013年度の主な資格取得としては、工事担任者、マイクロソフト認定技術者

（MCP）、第1級陸上特殊無線技士が各1名、第1種および第2種電気工事士が各2名の合計7名となっています。

つうけんでは、2013年度の資格取得者数が1級電気工事施工管理技士1名で、累計の資格取得者総数は22名となりました。

COMJOでは、2013年度においても、プロジェクトマネジメントに関する国際資格「PMP（Project Management Professional）」を3名、JAVA、C言語プログラミング能力認定を7名、Oracle認定資格を8名、情報処理技術者を11名など新たに取得し、主要資格保有者数は延べ745名となりました。

CSSでは、資格取得費用を会社負担にするとともに、指定した資格については、資格取得奨励金として一時金を支給しています。また年間定額セミナーを外部教育機関と契約し、業務の繁忙時期と調整しながら、社員が自己啓発のため自主的にセミナーを受講できるように環境を整えています。

2013年度の実績としては、メンタルヘルス・マネジメント検定[®] II種が3名、経理・財務スキル検定（FASS）レベルBが1名の合計4名となっています。

従業員とのコミュニケーション

経営層と社員とのコミュニケーションの促進

社長対話会の開催 コムシスグループ

—人づくり—

コムシスグループでは、各社のトップと社員とが直接コミュニケーションを図ることができる「対話会」などの交流の場を設けています。それぞれが「垣根」を払い、さまざまなことについて気兼ねなく話し合える有意義な機会として、積極的に活用されています。

日本コムシスでは、社長が全国各地の支店や現場を訪問し、日頃の安全に対する意識、新規ビジネスに対する思いなどについての講話や社員および協力会社社員との対話会を行いました。

サンコムでは、社長がお客様訪問や安全パトロールのため支店へ出張する際、支店社員および協力会社社員との対話会を実施しています。2013年度は8支店で計12回実施しました。

COMJOでは、日頃お取引先に常駐しているメンバーを集め、社長や経営幹部が経営課題やそのカイゼン活動への取り組みなどについて直接話し合う職場訪問や対話会を開催しました。また、社長や経営幹部がお客様訪問で支店に出張する際も、支店社員を対象に対話会を実施しています。

本部長などとの意見交換会を実施 **日本コムシス**

—人づくり—

日本コムシスでは、2013年5月27日、大崎ビル2階会議室にてNTT事業本部「全国営業／エンジニアリング部長会議」を開催しました。全国から約60名が参加し、本部長などが事業計画などについて説明をした後、意見交換を行い、情報共有を図りました。



全国営業／エンジニアリング部長会議の様子

ホットラインを開設 **日本コムシス** **TOSYS** **COMJO**

—継続的なBPR—

日本コムシス、COMJOでは、マネジメント層に疑問や意見を直接伝えることができるホットライン「CANライン」を社内ポータルサイトに開設しています。またTOSYSでは、風通しの良い職場づくりを目指し、2008年から社内に投書箱「わたしの風」を設置しています。寄せられたさまざまな意見については、関係部門で対応策を協議し改善に努めています。

ダイバーシティの推進

○ 社員の働きがいについての取り組み

シニアエキスパート制度を導入 **コムシスグループ**

—人づくり—

コムシスグループでは、定年退職（満60歳）後に勤務する意欲があり、雇用基準要件を満たす人材を継続して雇用する「シニアエキスパート制度」を導入しています。長く勤務したベテラン社員の熟練した技術や知識を、若い世代に継承するために重要な制度であると位置づけ、2014年3月末時点では、グループ全体で414名のシニアエキスパートを雇用しています。

また、社員を対象としたライフプラン研修も行っています。これまでの人生と今後の働き方について考え、一個人として充実した豊かな人生を送ることを目指すことを目的としています。

ディーセントな労働条件の提供

○ 女性が活躍できる職場づくり

次世代育成支援対策推進法に基づく取り組み **コムシスグループ**

—人づくり—

コムシスグループ各社において「次世代育成支援対策推進法」に基づき、それぞれの行動計画に沿った取り組みを行っています。日本コムシスでは2008年に、サンコムでは2011年に「次世代育成支援対策推進法認定マーク（くるみん）」を取得しました。日本コムシスでは18名が育児休業を取得したほか、サンコムでは3名、COMJOでは1名が育児休業を取得、1名が育児休業に伴う短縮勤務を実施し、つうけんでも1名が育児休業に伴う短縮勤務を実施しています。

○ ワークライフバランスの推進

エリア職社員制度を導入 日本コムシス サンコム COMJO —人づくり—

日本コムシス、サンコム、COMJOでは、地元志向の優秀な人材の確保と定着を目指し、勤務エリアを限定した「エリア職社員制度」を導入しています。個人の価値観やライフスタイルが尊重され、長年住み慣れた地元で専門性を高めていくことができる、新しい働き方が可能となりました。

この制度を利用し、2014年3月末現在、日本コムシスでは95名、サンコムでは39名、COMJOでは37名のエリア職社員が在籍しています。

○ 総労働時間縮減への試み

長時間労働の解消に向けた労使間の取り組み コムシスグループ —人づくり—

コムシスグループ各社の労働組合は、情報労連と連携しながら組合活動を行っていますが、春闘・秋闘では経営陣を交え、労使間で忌憚のない意見交換を行うなど、これまで培ってきた信頼関係の維持・発展に努めています。

TOSYSでは、長時間労働と恒常的な時間外労働を削減するために、労使間で定時退社日（水曜日）、年休取得推進週間などの各種施策を通じて、リフレッシュを図っています。このほか、水曜日の定時退社日を活用した職場でのレクリエーション（ボウリング大会）なども実施しています。

つうけんでは、労使間で密接な話し合いを行いながら、毎週水曜日をノー残業デーに設定したり、長時間労働者への医師による面談・指導を法令で定める以上に充実させるなど、時間外労働の削減に積極的に取り組んでいます。

COMJOでは、長時間労働による健康障害防止のため、深夜勤務・休日勤務の勤務管理者からの事前確認を徹底するなど、きめ細かな対応をすることにより、所定外労働の削減に努めています。

○ 公正な人事評価・給与体系

成績に対するフェアな評価の実践 コムシスグループ —人づくり—

コムシスグループでは、組織的な社員の育成を行う一方で、社員の業績をフェアに評価するための取り組みを積極的に行っています。各社で導入している目標管理制度では、上司と部下が面談する機会を設け、事業目標を共有した上で、各個人が実現可能なより高い目標を設定しています。評価については、個人の成果を数値化することにより公平性と透明性を確保し、組織単位での業績貢献度も加味するなど、多角的視点を取り入れています。業績と職務能力を公平かつ確に評価できる制度とすることにより、社員のモチベーション向上に努めています。

ステークホルダーのさまざまな期待に応え、ともに社会的価値を創造していくための施策

公正な事業慣行

オープン・フェアな企業文化

公正で堅実な事業活動を通じてパートナーシップとコミュニケーションを構築します。

基本的な考え方

コムシスグループで働く一人ひとりが事業を堅実に遂行するために、コンプライアンスの徹底、情報セキュリティとリスクマネジメントの強化に取り組んでいます。お取引先との相互理解と信頼関係の構築に努め、より良いパートナーシップによる公平・公正な取引を徹底し、企業価値経営の実践、積極的な情報開示、コミュニケーションの充実をお約束します。

コンプライアンス

○ コンプライアンス体制

コムシスグループ行動規範 コムシスグループ

—継続的なBPR—

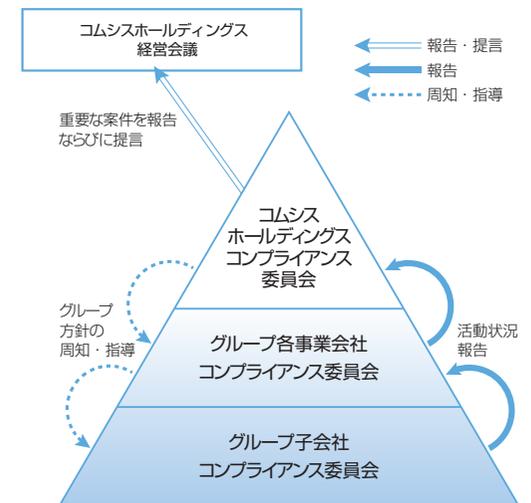
コムシスグループにおけるコンプライアンス（法令・企業倫理の遵守）を徹底するためには、グループ各社の社員一人ひとりがコンプライアンス行動指針に基づいた日常行動を徹底することが求められます。コムシスグループの役員・社員一人ひとりが具体的に遵守すべき行動原則として「コムシスグループ行動規範」を2010年3月に制定し、グループ各社の社員全員が実践すべき行動を示しています。

コンプライアンス推進体制の整備 コムシスグループ

—継続的なBPR—

2004年1月に制定された「コンプライアンス・プログラム」に基づき、コムシスグループのコンプライアンス体制の構築、強化に取り組んでいます。本プログラムで定めた「コンプライアンス行動指針」をグループ共通の行動指針として各社のコンプライアンス規程などに反映しています。また、グループ各社のコンプライアンス担当役員、社外監査役などをメンバーとしたコンプライアンス委員会を定期的を開催しています。各社からの活動状況などの報告により、情報を共有し、グループ各社の均質化に取り組んでいます。

コンプライアンス推進体制



○ 相談・通報体制

コンプライアンスホットラインの設置 コムシスグループ —継続的なBPR—

コムシスグループ各社の社員が日常の行動において、判断に悩んだときの相談・通報窓口として、ホットラインを設置しています。グループ各社の総務部コンプライアンス担当が対応するほか、社外の相談窓口として法律事務所の利用が可能です。寄せられた相談・通報については、コンプライアンス委員会にて、社外の有識者から助言や提言をいただくなど、適切なフィードバックに努めています。

公益通報制度を運営 コムシスグループ —継続的なBPR—

コムシスグループでは、コンプライアンス経営への取り組みを強化するために、「公益通報者保護規程」を策定しました。これは公益通報者保護法と内閣府のガイドラインに基づいて、社員や契約社員、嘱託社員、派遣社員からの通報により、組織的または個人的な法令違反行為などの早期発見と是正を図ることを目的とし、公益通報制度を適正に運営するためのものです。

リスクマネジメント

リスクマネジメントの方針 コムシスグループ —継続的なBPR—

企業活動は、さまざまな外部および内部的発生要因により大きな影響を受けることが想定されます。グループの経営ビジョン実現に向けた経営活動を持続的に発展させるためには、グループを取り巻くリスクを的確に管理していくことが求められます。そのため、日頃から事業活動に付随するリスクを適切に把握し、危機発生の回避と万一の場合の事前準備を社会的責任のひとつとして受け止め、リスクマネジメントに取り組んでいます。

○ 情報セキュリティ

e-ラーニングなどで情報保護に関する教育を強化 コムシスグループ —安心安全な業務体制—

コムシスグループでは、個人情報を含む企業情報の漏えい事故防止のための社員教育にも注力しています。e-ラーニングでは情報セキュリティの基礎知識や要員としての責務を学び、社員各自がそれぞれの理解度を確認しながらスキルアップを図っています。

●コムシスグループ各社のe-ラーニング受講修了率

	2011年度	2012年度	2013年度
日本コムシス	99.6%	98.4%	98.9%
サンコム	97.0%	97.9%	97.0%
COMJO	97.5%	99.5%	100%
CSS	100%	100%	100%

個人情報保護とコンプライアンスに関する教育 コムシスグループ —安心安全な業務体制—

近年、現場を取り巻く環境において、法令遵守はもとよりマナーやモラルについても高いレベルが要求されています。

日本コムシスでは、新入社員研修、各階層の研修においてコンプライアンスの事例やクイズを交えた講義により、知識の定着を図っています。

サンコムでは、社員およびパートナー会社社員に対して毎年2回の研修を開催しています。工事での情報漏えい、情報紛失防止の繰り返し教育を毎年実施することで、セキュリティ事故がお客様、お取引先、社会に与える影響を認識し、事故防止への強い意識を継続させることを目的に行っています。

TOSYSでは、毎年個人情報保護・コンプライアンスについて全従業員を対象に研修を行っています。

つうけんでは、社員およびグループ会社社員を対象として、年1回情報保護に関する教育を実施し、個人情報管理の重要性および社員個々人のモラル・意識向上の醸成を図ることにより、個人情報の漏えい・紛失などの事故防止に向けて取り組んでいます。

2013年度も身近な話題の事例を挙げ、日常業務におけるルールに重点を置き実施しました。企業としての社会的責任の重要性を浸透させるとともに、従業員が自発的に取り組むような企業風土づくりを展開しています。

プライバシーマーク制度の認定についても、今回で5回目の更新を行うなど、情報保護について取り組みを継続して実施しています。



研修会場風景



情報セキュリティ講習 (サンコム)

お客様情報の漏えい防止をシステム化 コムシスグループ —安心安全な業務体制—

コムシスグループでは、お預かりしているお客様情報の漏えい防止策の一環として、「セキュリティのシステム化」や「セキュリティパトロール」を通じ、職場から家庭までを含めた対策を実施しています。「セキュリティのシステム化」のツールとしては「COM.PASSカード」を導入して、業務で使用するすべてのPCの起動制御やファイルの暗号化、オペレーションの履歴取得を行うなどのセキュリティ対策の強化に取り組んでいます。

情報セキュリティの点検を実施 COMJO —安心安全な業務体制—

COMJOでは、お客様から信頼されるパートナーであり続けるため、情報セキュリティの現場点検を実施しています。情報セキュリティ委員がお客様の各現場まで出向き、守るべきルールと遵守状況などを点検しています。また、主要パートナー会社を対象にアンケート形式での二者間監査を行い、情報セキュリティに対する各社の取り組みを確認しています。

公正な競争・取引の実践

調達の基本方針

コムシスグループ各社では、それぞれの業態に合わせて資材や役務などに関する調達のための基本方針を策定し、法令遵守のもと、方針に沿って、オープンでフェアなお取引を通じて信頼関係の構築に努めています。

日本コムシスにおける調達の基本方針 日本コムシス —継続的なBPR—

- ▶ **公平・公正な取引**
お取引先選定は、資材・役務の品質・信頼性・納期・価格ならびにお取引先の経営安定性などを総合的に評価して公平・公正に行います。
- ▶ **法令・社会規範の遵守**
法令・社会規範および社内規程を遵守し、健全で公正な調達を行い不正な行為には加担しません。
- ▶ **品質の確保**
当社の「品質方針」に沿って品質と安全を優先し、さらにコストについても重視します。
- ▶ **お取引先との良好なパートナーシップの構築**
相互信頼関係に基づき、お互いの技術力の向上を図るとともに、良好なパートナーシップの構築に努めます。業務上の立場を利用した収賄、強制横領を行いません。
- ▶ **機密情報の保護**
取引を通じて知り得た機密情報は、お取引先の承諾なしに第三者に開示いたしません。

2013年度活動報告

ステークホルダーのさまざまな期待に応え、ともに社会的価値を創造していくための施策

コミュニティへの参画

地域とともに育てていただく

社員一人ひとりが社会とのさまざまなコミュニケーションを通じて、ともに成長していくことを目指します。

基本的な考え方

良き企業市民として、社会の要請と信頼に応え、国内外において自社の事業を通じた社会貢献活動を通しコミュニティへの参画を推進しています。さらに地域社会の一員として、地域の皆さまとのコミュニケーションを深めるとともに、地域貢献に向けたさまざまな取り組みを行っています。

コミュニティへの積極的な参画

○ 教育・文化・スポーツ面での貢献

障がい者スポーツ大会のネット中継をサポート **日本コムシス** 一人づくり

日本コムシスでは、飯塚国際車いすテニス大会や全日本視覚障害者柔道大会において、大会期間中にNPO法人STANDが運営するインターネットライブ中継「モバチュウ」に関わるADSL回線引込・接続設定、大会後のLAN配線の撤去作業などの支援活動を行っています。



全日本視覚障害者柔道大会 中継の様子



全日本視覚障害者柔道大会 配線作業の様子

5年間にわたるサポートに対して感謝状をいただきました **日本コムシス** 一人づくり

日本コムシス九州支店では、2009年より飯塚国際車いすテニス大会において障がい者のスポーツ大会を支援するNPO法人STANDの活動事業であるインターネットライブ中継「モバチュウ」に関わる配線工事（LAN／電源）、ADSL接続時のルータ設定、配線撤去、その他雑務などの支援作業を継続して行っています。



感謝状

こうした長年の活動に対して2013年12月4日、飯塚国際車いすテニス大会の大会名誉会長、麻生泰様より感謝状をいただきました。



感謝状をいただきました

インターンシップを実施 つうけん

—人づくり—

つうけんでは、インターンシップを8年継続して実施しており、今年度も2013年8月に1週間、北海道内の大学4校から4名の学生を受け入れ、事業概要説明のほか、各事業部において現場見学、光・メタルケーブル接続演習などを行いました。

一方、11月13～15日の3日間、北見事業所で工業高校の学生6名に対して、光ケーブル、メタルケーブルの仕組みおよびインターネットや電話が開通するまでの仕組みを説明しました。

また、つうけんの業務内容を理解していただくために会社概要などを説明し、研修を終了しました。インターンシップを経て、2010～2013年度に毎年1～2名の社員が入社しています。

防災訓練への参加 TOSYS

—安心安全な業務体制—

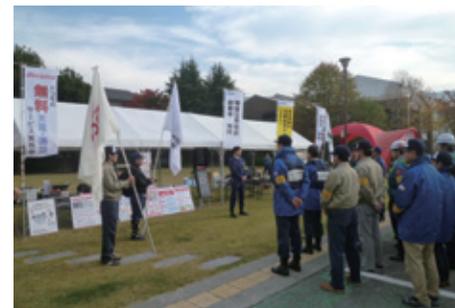
TOSYSでは、2013年11月3日、諏訪市で実施された平成25年度長野県総合防災訓練に、諏訪サービスセンターがNTTグループの通信設備復旧訓練のメンバーとして参加。災害時の通信インフラの重要性と役割を確認し合うことができました。



ブロードバンド無線の設置訓練

長野県総合防災訓練は、地震、火災、

豪雨災害による甚大な被害発生、諏訪湖遊覧船衝突事故などを想定し、県・市町村・自衛隊・消防・警察・病院など防災関係機関や住民、地元企業など全体で108団体、約3,000名が参加して行われました。



防災訓練の様子

子供向けパンフレット「サンコムの子ごと」作成 サンコム —人づくり—

サンコムでは、「お父さん・お母さんがどんな仕事をしているんだろう」をテーマに、写真や絵をふんだんに使用した小学校低学年向けの冊子「サンコムの子ごと」を作成しています。



「サンコムの子ごと」表紙

親子パトロール 日本コムシス —人づくり—

日本コムシスでは、2013年8月20日、NTT事業本部アクセスシステム部青山事業所にて夏休み「親子パトロール」を開催し、5家族15名、事務局スタッフ5名の計20名が参加しました。

お父さんの仕事ぶりを見て、親子の絆、お子様の見識を深め、また、夏休みの自由研究にも役立てていただくことを目的に設備のつながり、新築工事中のコムシス品川港南ビルの見学（2014年3月完成）、工事現場パトロール見学、本社ショールーム見学、最後には振り返り反省会という1日コースで行いました。

反省会では、「また参加したい、お父さんの後継者になりたい、勉強になった」といったご意見をいただきました。また、「朝早くから夜遅くまで働いているお父さんの背中を見ることができ、さらなる親子の絆、夫婦の絆が深まりました」というお母様からのご意見もいただくなど好評でした。



新ビル建築現場見学についてのオリエンテーションの様子

座・高円寺への協賛 サンコム

-人づくり-

サンコムでは、地域に根ざした文化活動への貢献の観点から、杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」が発行する劇場回数券「なみちけ」への協賛を行いました。



杉並芸術会館客席に設置された記念プレート

地元小学校に写真ニュース掲示板を寄贈 サンコム

-人づくり-

サンコム本社がある杉並区の杉並第八小学校に、2012年から引き続き「朝日写真ニュース1年分」を寄贈しました。



小学校への「朝日写真ニュース」寄贈

○ さまざまな活動を通じた貢献

車こども110番 日本コムシス TOSYS

-人づくり-

日本コムシスでは、一般社団法人情報通信エンジニアリング協会と取り組んでいる「こども110番活動」をサポートしています。工事用車両に「車こども110番」のステッカーを貼ることで、工事エリアでの地域の防犯に協力しています。

またTOSYSでも、社会貢献活動への参加意識を高めることを目的とし、工事用車両に子どもが見やすい位置にステッカーを貼る、走行中および工事中に駐車している車両に子どもが助けを求めてきた場合は保護者や学校、警察などに連絡するといった取り組みを実施しています。

ペットボトルキャップ回収 コムシスグループ

-人づくり-

コムシスグループ各社では、ペットボトルのキャップ売却益をワクチン購入費に充てるNPO法人エコキャップ推進協会の活動に賛同し、キャップの回収を行っています。CSSが中心となり、2013年度は合計78.7kgを回収しています。

ブックキフ活動 日本コムシス

-人づくり-

日本コムシスでは、本を集めてブックオフコーポレーション株式会社に売却して寄付する「ブックキフ」活動を2010年度から半期に一度実施しています。2013年度は本やDVDなどが集められ、その売却額10,405円を特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンに寄付しました。

2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
8,723円	10,049円	8,746円	10,405円



集められた本やDVD



ピースウィンズ・ジャパンからの御礼状

募金活動 コムシスグループ

—人づくり—

コムシスグループでは、幅広い分野に対して募金活動を実施しています。

2013年度は、台風30号の影響により多大な被害が発生したフィリピン共和国に対し、グループ各社での募金活動を行いました。マッチングギフト（会社による増額負担）の支援を受け、4,056,500円を2014年1月17日にフィリピン大使館へ寄付。ロペス大使からは、「このようにたくさんの義援金をいただき、深く感謝します」とのお言葉をいただきました。

また、日本コムシスでは、台風26号の影響により多大な被害が発生した伊豆大島に対し、2013年12月4日、東京都福祉保健局指導監査部長飯塚様に義援金をお渡ししました。この義援金もマッチングギフトの支援を受けたもので、金額は1,874,000円となりました。飯塚様からも、「こんなにたくさんの寄付をありがとうございました」と感謝のお言葉をいただいています。



義援金の贈呈（東京都庁）



義援金の贈呈（フィリピン大使館）

国境なき医師団への貢献 CSS

—人づくり—

CSSでは、社会貢献型自動販売機を利用することにより、自販機業者を経由して「国境なき医師団」への寄付をしています。2013年4月～2014年2月までの寄付金総額は418,442円でした。

この金額は、はしかの予防接種なら約16,700本、栄養治療食なら約12,500食分に相当します。自動販売機の設置をお願いしているお客様へは「設置費用」、ドリンクを飲んでいる皆さんには「低価格でのご提供」、そして、意識す

ることなく自動的に「国際貢献」が実現できるWin-Win-Winが成立しています。



飲料購入を通じて金額の一部が寄付される自販機

全国各地で清掃・美化活動 コムシスグループ

—人づくり—

コムシスグループでは全国各地において、清掃・美化活動に力を入れています。地域の自治体・自治会などが主催する清掃活動に積極的に参加しているほか、事業所周辺での自主的な清掃活動なども定期的に行っています。

日本コムシスでは、全国各地の拠点でビル周辺や地域の公園、海水浴場などのさまざまな清掃活動に参加しました。特に、2013年4月23日に実施された「渋谷区統一美化デー」については、青山事業所全体で300名の社員が参加しました。

TOSYSでは、2013年5月26日の鳥屋野湯一斉清掃（新潟）、10月5日の屋島河川敷清掃（長野）にそれぞれ社員・家族ら約40名が参加し、ゴミ回収活動を行いました。

屋島河川敷清掃でのゴミ回収量の目標は200kgでしたが、現地のゴミも年々減少してきたようで、今回は可燃・不燃物合わせて約150kgのゴミを回収しました。ゴミの回収量は減少傾向となっていますが、まだまだゴミが投棄されていることから、少しでもポイ捨てが減ることを願い、また小さな輪から大きな輪に広がるよう環境意識を深め、継続して回収活動を行っていきます。

つうけんでは、積極的に社会貢献活動に取り組むとともに、地球環境にやさしい事業活動を通して、地域社会へ貢献することを目指しています。その一環として、春・秋の年2回本社ビル周辺の清掃活動を行っており、本社社員が公園や国道沿いの道路などの清掃活動を行いました。

また、札幌市の白石区役所と「まちづくりパートナー協定」を締結している「白石区ふるさと会」が主催する地域環境美化活動に参加しました。今回の取り組みは「白石サイクリングロードにおける環境美化活動」というもので、白石区で事業を営んでいる企業などが多数参加し、つうけんは南郷通19丁目から20丁目までのサイクリングロードの清掃を担当、本社から15名が参加しました。

ゴミや空き缶などは意外と少なく、ひたすら「落ち葉拾い」という清掃活動になりましたが、それでも45リットルのゴミ袋15袋分を収集しました。



日本コムシス 信越事業部清掃活動



TOSYS 河川敷不法投棄ゴミ回収活動



つうけん本社ビル周辺の清掃活動



つうけん「白石区ふるさと会」が主催する地域環境美化活動

地域社会との交流

○ 地域交流イベントを開催

ドリームフェスタ2013の開催 TOSYS

—人づくり—

TOSYSでは、2013年11月9日、長野市・南長野運動公園において、通算21回目を迎えた「TOSYSグループドリームフェスタ」を開催しました。

社員が提供したチャリティーグッズの販売、各事業所の地域特産品販売による楽市、子ども広場など地域の皆さまとの交流を図るイベントと、TOSYSグループ、日本コムシス、COMJO、炭平コンピューターシステムの社員によるスポーツ大会を開催し、交流・親睦を深めました。

本フェスタには約1,000名の社員・家族、地域の皆さまが訪れ、大変盛況の中で幕を閉じました。

また、チャリティーバザー、楽市での収益金は会社のマッチングギフトと合わせて、長野市福祉部に30万円を贈呈しました。



バザー会場風景



TOSYS グループドリームフェスタアーチ



長野市への寄付金贈呈

○ 地域イベントへの参加

地域の祭事への参加 **日本コムシス** **サンコム** **TOSYS** **つうけん** **—人づくり—**

日本コムシスでは、北海道「ミニ大通お散歩まつり」に参加し、野菜の販売を行ったり、支店ビルのトイレ、備品（机、いす）の貸出や駐車場の開放を行っています。さらに、社員持参のラジコンなどおもちゃを使って子どもが遊べるコーナーも設置。地域の一員としてこの祭りに参加することで、地域住民とのつながりを大切にしています。



第57回東京高円寺阿波おどり

サンコムでは、恒例の「第57回東京高円寺阿波おどり」（2013年8月24～25日）に、「コムシスグループ連」を結成して踊り手として参加しました。2013年は「この街に咲く」と題し、高円寺に集まる多くの人々に笑顔の花が咲き、踊る喜び、舞台を作る喜び、見る喜びを分かち合うことを目標に、初日の24日は夕方から全員最後まで元気に踊ることができました。今回は、前回から始めた女踊り、鳴り物に加え、子ども踊りにも挑戦し、社員の子も3名が参加。日々の練習の成果を発揮して、前回以上の一体感が出せました。その結果、連発足から6年目にして、杉並区の友好都市である群馬県東吾妻町より友好賞を初受賞しました。また、2日目の25日には大会運営のボランティアに参加し、会場の清掃活動を



長野びんずる



旭川夏まつり「大雪連合神輿」

行いました。開催中に出る大量のゴミを分別して資源を換金し、インドの教育支援に充てるお手伝いをしました。

TOSYSグループでは、毎年、長野市と新潟市で8月に開催される「長野びんずる」「新潟まつり大民謡流し」の2大祭りに多くの社員が参加し、社員や地域住民の皆さまと交流を深めています。揃いの法被や浴衣に身を包み、約100名の社員が息の合った元気な踊りを披露することができました。

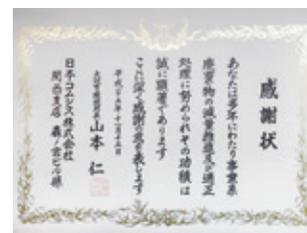
つうけんでは、毎年8月に行われる「旭川夏まつり」に、地域貢献とつうけんグループの親睦を図ることを目的として、各事業所、グループ会社、OBなどの協力を得て、「大雪連合神輿」に参加しています。また、小樽事業所は「おたる潮まつり」（7月）、釧路事業所は「くしろ港まつり」（8月）、函館事業所は「函館港まつり」（8月）など、各事業所において地元の祭りに参加しています。

○ 外部表彰

表彰関連 **日本コムシス**

—継続的なBPR—

日本コムシスは、特集1でも取り上げた水道施設工事についての「東京都水道局長表彰」（受賞組織：社会基盤事業本部）をはじめ、「森ノ宮ビル 大阪市環境局長表彰（ごみ減量優良建築物）」（受賞組織：関西支店）、「Dell Storage Excellent Award 2013」の受賞（受賞組織：ITビジネス事業本部）、渋谷区長より感謝状（NTT事業本部／青山事業所）をいただくなど、多数の表彰を受けました。



大阪市環境局からの感謝状



「Dell Storage Excellent Award 2013」
受賞式と贈呈トロフィー



渋谷区長から感謝状を授与された
青山事業所のメンバー

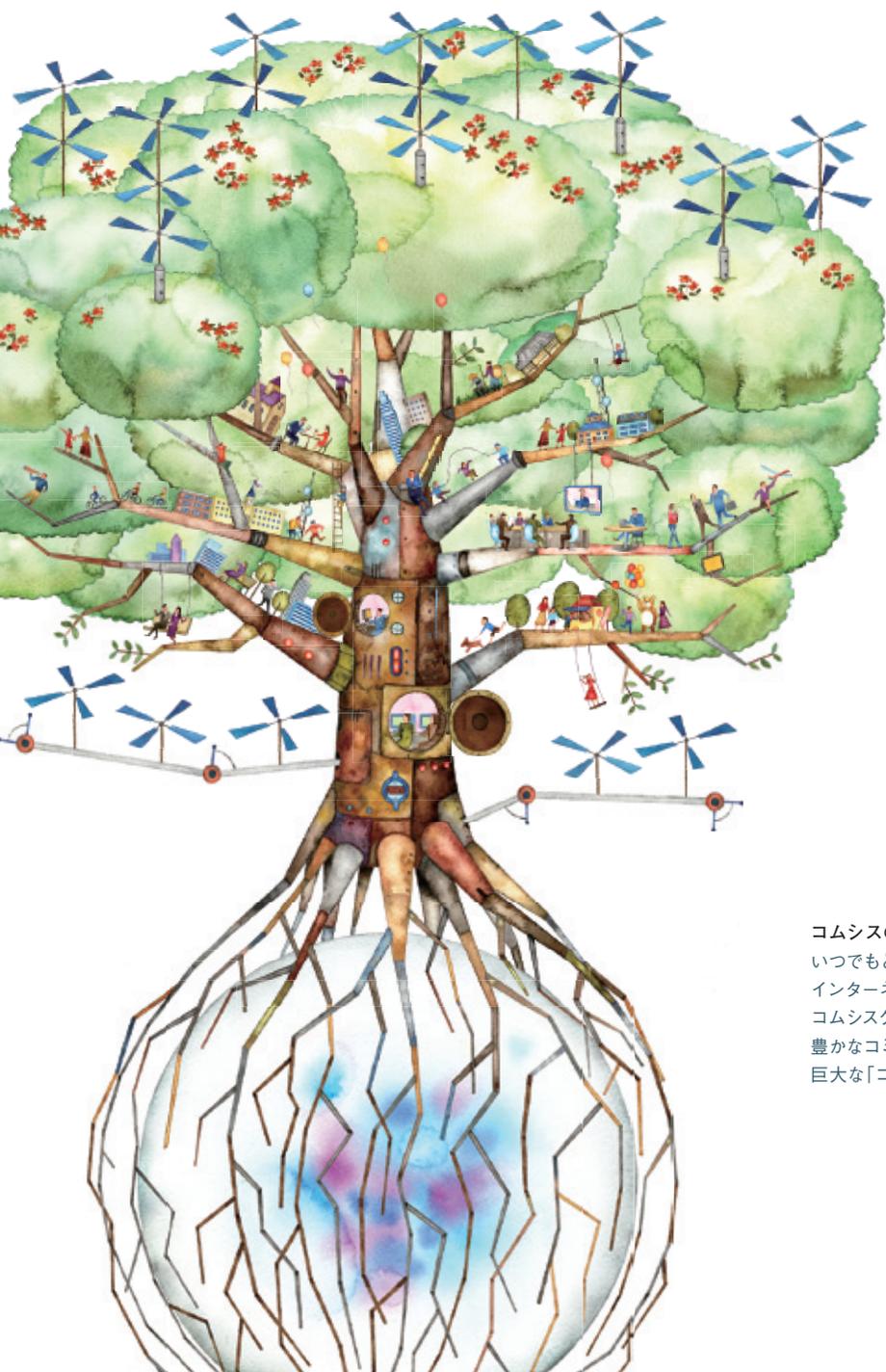
●参考資料

コムシスグループCSRのあゆみ

●コムシスホールディングス
 ●日本コムシス
 ●サンコム
 ●TOSYS
 ●つうけん
 ●COMJO
 ●CSS

1940年代	
1947年	● 三和電気興業株式会社設立
1950年代	
1951年	● 日本通信建設株式会社設立 ● 大北電建株式会社設立
1954年	● 北海道電話工事株式会社・北海道通信工事株式会社と合併
1960年代	
1960年	● 新潟電話工業株式会社設立
1961年	● 共栄工業株式会社と合併、北日本通信建設株式会社に社名変更
1967年	● ソフトウェア要員の養成開始
1968年	● 大榮通信工業株式会社と合併、三和大榮電気興業株式会社に社名変更
1970年代	
1979年	● 情報エンジニアリング部を新設。ソフトウェア開発事業を本格的に開始
1990年代	
1990年	● 日本コムシス株式会社に社名変更
1992年	● 株式会社つうけんに社名変更
1996年	● 株式会社三和エレックに社名変更
1997年	● ISO9001 を組織別に認証取得 ● 信越通信建設株式会社と合併、東日本システム建設株式会社に社名変更
1998年	● ISO9001 を本社および全支店で認証取得 ● テクノ電設株式会社と合併 ● ISO9001 認証取得
1999年	● コムシス大宮ビルに太陽光発電システムを導入 ● ISO9001 を関連会社へ拡大 ● ISO9001 認証取得 / ISO14001 認証取得
2000年代	
2000年	● 「コンプライアンス規程」を制定
2001年	● ISO14001 を全社で認証取得 / ISO9001 を全社・全組織に統合
2002年	● 「コンプライアンス・マニュアル」を作成 ● ISO9001 登録変更 / OHSAS18001 認証取得 ● OHSAS18001 認証取得
2003年	● 日本コムシス・三和エレック・TOSYS の3社共同の株式移転により、 純粋持株会社としてコムシスホールディングス株式会社設立 ● ISMS 組織別認証取得 ● ISO14001 認証取得

2003年	● 日本コムシスの共通業務をアウトソーシングし、 コムシスシェアードサービス株式会社を設立
2004年	● ISMS を全社・全組織に拡大 ● プライバシーマーク認証取得 ● ISO14001 認証取得
2005年	● 企業理念、行動指針を新たに制定 ● サンワコムシスエンジニアリング株式会社に社名変更 ● JIS Q 27001 認証取得
2006年	● COHSMS を全社認証取得 ● 厚別ビルに太陽光発電システムを導入 ● プライバシーマーク認証取得
2007年	● 総務部 CSR 推進室を発足 ● 情報セキュリティ向上のため、ISO/IEC27001 へ移行
2008年	● コムシス高円寺ビルに太陽光発電システムを導入 ● プライバシーマーク認証取得 ● 総務人事部広報・CSR 推進室を発足 ● 次世代認定マーク（愛称：くるみん）取得
2009年	● 日本コムシスより情報事業を分社化し、コムシス情報システム株式会社設立 ● 総務部 CSR 推進室を発足 ● 総務部広報・CSR 推進室に組織変更 ● 総務企画部 CSR 推進室を発足 ● 千葉テクノステーションに太陽光発電システムを導入
2010年代	
2010年	● コムシス北海道ビルに太陽光発電システムを導入 ● 本社ビルに太陽光発電システムを導入 ● 総務人事部 CSR 推進室を発足 ● ISO/IEC27001 認証取得 ● 株式会社つうけんと株式交換により経営統合
2011年	● 次世代認定マーク（愛称：くるみん）取得
2012年	● 日本コムシスグループ再編
2013年	● 常陸太田太陽光発電所、昭和太陽光発電所、津太陽光発電所稼働 ● 衛生推進室設置
2014年	● 尾山台テクノステーションに太陽光発電システムを導入 ● 株式会社日本エコシステムの株式を取得



コムシスグループは
「通信ネットワークによって人と人、
人と社会がより豊かにつながる社会づくり」を
めざしています。

コムシスの木

いつでもどこでも当たり前のように携帯電話が楽しめること。
インターネットやテレビ電話会議でビジネスが、くらしがますます便利になること。
コムシスグループはその根幹となるネットワークを先進のITで支え
豊かなコミュニケーション社会の実現に貢献していることを
巨大な「コムシスの木」に喩えて表現しています。



コムシスホールディングス株式会社

CSR推進室

〒141-8647

東京都品川区東五反田2-17-1

TEL 03-3448-7190

FAX 03-3447-3993

URL <http://www.comsys-hd.co.jp/>



環境に配慮した植物油インキを使用しています。



この冊子に使用している用紙の売上の一部は、生物多様性を保全する活動に寄付されています。また、この紙を使用することで国産材の有効活用が推進されます。